

第10回 県立都市公園のあり方検討会 明石公園部会 議事録

【開催概要】

日時	令和5年8月8日（火） 10:30～16:06
場所	あかしこども広場 多目的ルーム
議事次第	1 開会 2 議事 （1）意見交換会（公園利用者へのヒアリング） ・活性化 3 閉会
会議資料	出席者名簿 配席図 （資料1）意見発表者一覧 （資料2）意見要旨

【出席者】

(1) 委員

分野	氏名	所属・役職	備考
有識者	上町 あずさ	武庫川女子大学 教授	
	高田 知紀	兵庫県立大学 准教授	部会長 オンライン参加
	嶽山 洋志	兵庫県立大学大学院 准教授	副部会長
	村上 裕道	京都橘大学 教授	
利用者	飯塚 由美子	特定非営利活動法人 明石障がい者地域生活ケアネットワーク 理事長	
	兼光 たか子	明石公園の自然に親しむ会 代表	
	河本 裕之	(一財)兵庫県高等学校野球連盟 理事兼明石球場主任	
	小林 禧樹	明石公園の自然を次世代につなぐ会 代表	
	辰巳 太一	(一社)明石青年会議所 理事長	
行政	中務 裕文	加古川市 建設部長	
	丸谷 聡子	明石市長	

(2) 事務局

氏名	所属・役職	備考
柴田 和弘	まちづくり部長	
松田 竜一	まちづくり部次長	
北村 智顕	まちづくり部参事兼公園緑地課長	
小山 達也	まちづくり部公園緑地課 副課長兼企画管理班長	
平田 昌義	まちづくり部公園緑地課 副課長兼整備班長	
北田 智広	まちづくり部公園緑地課 特定プロジェクト班長	
黒坂 公晶	東播磨県民局 加古川土木事務所長	
西田 憲生	東播磨県民局加古川土木事務所 明石街づくり対策室 長	
岩根 聡一郎	東播磨県民局加古川土木事務所管理第2課 所長補佐 兼課長	
竹川 英文	東播磨県民局加古川土木事務所明石街づくり対策室 明石事業第2課長	

1 開会

○事務局 小山

よろしいでしょうか。それでは、ちょうど時間となりましたので、第10回県立明石公園のあり方検討会明石公園部会のほうを始めさせていただきたいと思います。

司会のほうは、私、県公園緑地課副課長小山のほうでさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

最初にですね、この会議につきましては、いつもどおり全公開でさせていただきたいと思っています。

まず、傍聴の皆さん方にちょっとお願いがございます。お越しになりましたときに、注意事項のほうを配付させていただいております。こちらのほうを御留意いただきまして、円滑な議事進行への協力をよろしくお願いをいたします。

それから、報道の皆さん方でございますが、会議終了後、御希望があれば、この会場で記者会見をさせていただきます。また、終了間際に、確認のほうをさせていただきますのでよろしくお願いをいたします。

それから、この会場全体の注意事項でございます。室内は、飲物のほうは可能でございますけど、食事はできません。お昼は1時間30分、時間を空けてございますので、その中で、対応をいただければと思います。もしお食事される場合につきましては、会場を用意しております。それを、また、お昼の段階で御案内をさせていただきたいと思います。

最後に、非常に最近コロナがはやっております。マスク着用等、特段こちらのほうから指定はさせていただきますけれども、咳エチケット等を、最低限の基本的なマナー等を守っていただきまして、感染防止に御協力いただけますようよろしくお願いをいたします。

それでは、資料の確認でございます。

お手元、席のほうに置かせていただいております。1つには次第、そして出席者名簿、配席図、資料1といたしまして、意見発表者の一覧、資料の2として、意見要旨のほうを配付させていただいてます。もし、なければ事務局のほうへ言っていただきましたら、すぐお持ちをさせていただきたいと思います。

続きまして、出席者の御紹介でございます。本来であれば、お一人お一人御説明をさせていただくところなんですけど、ちょっと時間の都合上、委員、事務局ともに出席者名簿のほうを参照いただきましたらというふうに思います。よろしくお願いいたします。

定足数の確認でございます。要綱第5条第3項により、定足数につきましては、委員の過半数となっております。本日、委員定数11名に対しまして、現在10名が御参加いただいております。後ほど、辰巳委員に御参加いただきますので、全員参加ということに最終的にはなります。

それから、画面正面右手に、画面で出ておりますけれども、高田部会長は、今日、オンライン参加ということになります。どうぞよろしくお願いをいたします。

本日は、事前に周知をさせていただいてますとおり、県民の皆さん方、公園事務所の皆さん

ん方からの意見をいただきまして、委員の皆さん方と意見交換をいただくということになってございます。登録19名、19組ではあったんですけれども、お一人、ちょっと体調不良で欠席となります。意見につきましては事務局のほうで代読のほうをさせていただきたいと思いますので、御了承いただきますようよろしくお願いをいたします。

発表者や皆さん方にちょっとお願いがございます。会場の出入りにつきましては自由でございすけれども、可能な限り、休憩時間等を御利用いただきまして、円滑な意見交換に御協力いただければというふうに思います。

併せまして、発表時間は各5分、その後、全員で意見交換ということになってございます。後ろのほうで、時間前になりましたら、ベルのほう、ごめんなさい、あれ、チンですね。チャイムのほうを鳴らさせていただきますので、できるだけ時間厳守をいただきまして、活発な意見交換のほうをさせていただきたいと思います。

2 議事

○事務局 小山

それでは議事に入ります。議事につきまして、要綱第5条第2項により、議長は、部会長がこれに当たるとなっております。本来、高田部会長において議事進行いただくところでございますけれども、今日、オンライン参加ということでですね、ちょっと議事進行は非常に難しいといったことで、嶽山副部会長のほうにお願いをさせていただきたいというふうに思います。こちらのほうも、要綱第3条第6号の規定に基づきさせていただきたいと思います。

なお、最終の取りまとめのほうは、高田部会長のほうにやっていただきますので、そちらのほうも御了承いただければというふうに思います。

それでは、これ以降、嶽山副部会長、よろしくお願いいたします。

○嶽山洋志副部会長

はい。皆さん、どうもおはようございます。

○出席者 各位

おはようございます。

○嶽山洋志副部会長

副部会長を仰せつかっております嶽山と申します。

今日、高田先生、言っていていいでしょうか。コロナに感染されたということで、大変な状況にもかかわらず、オンラインで参加していただいているという状況でございます。進行のほうは、私のほうでさせていただきますけれども、最後の取りまとめですね、昨年度も、このヒアリングの会というものはさせていただいたかと思うんですけれども、その取りまとめ、ど

ういう議論があったかということにつきましては、最後、部会長のほうからお話があったか
と思います。そのまとめのところの作業というのは、高田先生をお願いしておりますので、
高田先生、よろしくお願いいたします。

何か一言ございますか。

○高田知紀部会長

すいません、高田です。今日はすごく楽しみにしてたんですけど、ちょっとはやり病で会
場へ行けなくなってしまって、すいません。でも、オンラインで、皆さんの議論をしっかり
聞いて、いつもどおり、これからの明石公園に向けて、活発な議論ができたらというこ
とで、嶽山先生の進行を、オンラインでもちょっとでもサポートしたいと思います。皆さん
の発表も、とても楽しみにしています。よろしくお願いします。

(1) 意見交換会（公園利用者へのヒアリング）

◇第1グループ

○嶽山洋志副部会長

はい、ありがとうございます。

それではですね、早速ではございますけれども、第1グループの方の御発表に移らせてい
ただきたいと思います。今日、全部で5グループということでございまして、4時ぐらいで
すか、長丁場なりますけども、よろしくお願いします。

第1グループの方々には8名いらっしゃると思うんですけども、全員、前のほうにお願いで
きますでしょうか。

ごめんなさい。そうか、順番に、ちょっとお名前を呼ばさせていただきたいと思います。
まず、特定非営利法人陽だまりの会の松井様、阿部様、前川様、金尾様、西澤様、こちらの
ほうからお願いいたします。それから松本様、竹内様、最後、縄様でお願いいたします。

縄様、いらっしゃいますか。

○縄雄介

おります。

○嶽山洋志副部会長

ごめんなさい。

○丸谷聡子委員

竹内さんがいない。

○嶽山洋志副部会長

竹内さんがいない。失礼しました。

それではですね、順次、発表のほうをしていただきたいと思いますけれども、発表は5分でございまして、一通り質疑なしで3組の方に御発表いただきまして、その後、20分質疑というふうな形で進めさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

じゃ、発表をお願いします。

○松井勝也、阿部さき子、前川裕司、金尾良信（特定非営利活動法人陽だまりの会）

発表させていただきます。阿部と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

早速ではありますが、私たちは、県立明石公園を、明石城を中心とした緑豊かな景観はもちろん、駅が近いという恵まれた立地から、兵庫県民の誰もがアクセスしやすい環境であると感じております。県立明石公園内旧明石市立図書館跡の有効活用について、孤独・孤立対策の総合拠点創りを御提案いたします。

さきの国会で、孤独・孤立対策推進法、基本法の成立を踏まえて、生きづらさを持たれている方たち、例えばひきこもり状態の方、不登校、ヤングケアラー、LGBTQ、高齢者、障害をお持ちの方、孤立されている女性などへのユニバーサル総合居場所の設置、総合相談窓口、情報の発信拠点、総合的な中間支援体制、福祉人材の育成機能など、あらゆる体制を整えたプラットフォームができないかと御提案いたします。

そのプラットフォームに関する5つの機能ですが、まず1つ目に、ユニバーサル総合居場所の設置です。

生きづらさを持たれている方に対しての居場所設置の必要性は、強く広く知られているかと思いますが、属性による居場所が点在しているというのが今の現状です。今回は、これらをモデルケースとしまして、ジャンル別に、居場所を設置する。例えば、ルームAでは音楽のお部屋、ルームBでは室内スポーツのお部屋、ルームCは交流のお部屋などを設置することによりまして、属性や垣根を超えた交流が可能となります。旧明石市立図書館跡は、物理的にも理想です。

2つ目に、総合相談窓口として、相談窓口も、現状、属性による窓口が点在しております。生きづらさを抱えた方が困ったときには、どこにつながればよいのかといった窓口が分かりづらいという方が多数おられます。窓口が、総合相談窓口として、困った場合は、まずここへという1本化されることが望まれます。

3つ目としまして、情報の発信拠点として、ICTを活用した支援体制、双方向のポータルサイトなどを含んだ近い未来の支援における拠点が必須と思われます。属性により、個別に対応している場合、資金運用面、人材面、効率面などで地域差が出てまいります。情報の正確さも含めて、総合的な発信拠点が必要と感じております。

4つ目に、総合的な中間支援体制です。生きづらさに対しての支援は、個々の単一団体では解決いたしません。多職種、他団体などとの連携、提携が必要です。集約が可能な、官民参画連携の総合的な中間支援体制としてのプラットフォーム型の必要性を感じております。

最後、5つ目ですが、福祉人材の育成機能について、福祉人材については、地域により、ばらつきが感じられます。人材育成に対しても、集約的、効率的な育成方法の必要性を感じます。研修会、セミナー、講演会など、オンラインを含みましたことを、こちらの拠点で実施することにより、地域に密着した、優れた人材の標準化が期待できます。

これらのことを踏まえまして、県立明石公園内の旧明石市立図書館跡は、利便性、周囲の環境、その他、物理的にも全てに恵まれており、生きづらさを抱えておられる方々が、生き生きとできる総合拠点創りに最適かと思われます。

今回の孤独・孤立対策推進法の成立の機会が、県内において、旧明石市立図書館跡が拠点となり、生きづらさを抱えてる方たちへの理解と応援が、さらに深まることを求めて御提案をいたします。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

○嶽山洋志副部長

ありがとうございました。

続けて御発表いただきたいと思います。松本様、お願いできますか。

○松本誠

こんにちは。太寺に住んでおります松本誠と言います。

今日のお題というか、テーマは、明石公園の活性化策という話です。この活性化策については、これまでの明石公園部会などでの県のほうからのいろいろな説明、資料によりますと、公園をより活性化、需要度を高めていくために、民間活力の導入をするという、あるいは、民間に、ビジネスチャンスの機会を与えて、民間の力でもって活性化を図るというふうなことが入っております。

ただ、今日のこの公開ヒアリングに当たって、前回の部会を傍聴しておりましたら、県のほうが、ただ、明石公園で、必ずしもそういう民間活力の導入をやるということを前提に考えているわけではないとおっしゃってます。だから、その辺りの県の思いはどこにあるのかというのが、今、現時点ではよく分かりませんが、私は、この明石公園にですね、民間活力の導入などは全く要らない。民間は民間でも、企業じゃなくて、個人と市民の市民力を利用した公園づくりというのは大変大事だと思ってますけども、この明石公園というのは、ただの県立公園と違って、言えば別格、官幣大社みたいなもので、言わば歴史が、少なくとも100年の、県立は戦後ですけども、公園としての歴史は持ってる。さらに遡れば、明石城築城以来400年に及ぶですね、歴史をたたえているわけですね。それをそっくり公園としているわけですから、魅力は山のようにあるわけです。だから、人は呼ばなくても、本来、明石公園が持ってる魅力をきっちりと発信すれば、十分に社会的なアピール力があるというふうに思っております。

したがって、いろんな民間のビジネスチャンスを導入して、いろんな事業を行って、イベ

ントを行って、そして収穫するということは、ほとんど不要であると、むしろ、マイナス面が多いのではないかと考えております。

では、明石公園はこのままでいいんかと言えば、決してそうは思いません。もう既に、この1年余りの明石公園部会での議論されてきましたように、この公園の特色は、たくさんあります。

私は、全てのものにわたって、今日はお話ししませんけども、2つだけ挙げるとすれば、1つは、国指定の史跡と看板を上げておきながら、何が史跡なのかというところが外来者には分からないです。

確かに城下町、お城があった江戸時代当代を光来する、非常に明石という海と陸の喉元を押さえる城下町、非常に重要な拠点であったということは、歴史の文書をひもとけば分かるんですけども、明石公園に来た人がどうやってそれを知るんかと。私は、全国をやっぱり旅をした場合には、城下町、お城があれば、必ずお城を見るようにしてます。城下町というのは、お城にまちづくりのアイデンティティーが籠もってるわけですね。だから、その町がどのような歴史をたどってきたということが、きちんとそこに展示されたり、アピールされてるんです。明石城下町を、外来者が、あるいは市民が学ぶ、そこから何かを得るという資料館というのは全くないわけですね。

私たちは、市民団体としても、この点を十数年来問い続けてアピールしてきましたけども、いまだにその動きはありません。私は、一刻も早く、これは、明石市と県が協働してやるべきであって、県だけがやる話じゃないと思います。明石全体の城下町、明石の資料館を、この明石公園を中心にして、やっぱり展開していくということを、一刻も早くしてほしいというのが1つです。

もう一つは、もう多言を要しませんが、自然環境であります。豊かなこの明石公園の自然環境をとということが、これほど議論されながら、じゃ、その自然は、自然の中に入ればそれでいいんですけども、どこかでその自然環境に由来、植生あるいは昆虫あるいは野鳥、こうしたものが、どのようにここに飛来をして、生息して、それがこの自然をより高めているんだ。そして、都市のど真ん中で、この自然の豊かな公園が残ってきたということがですね、一目で分かるようなミュージアムというものもぜひつくってほしい。これは、明石公園のやっぱり存在感を高めるためにも、この明石公園の豊かな自然のミュージアムづくりというのは、明石市の、明石公園の活性化のために、何を置いても取り組まなきゃいけない。これは、公園だけじゃなくて、公園に隣接する市街と相まってるんですから、やっぱり県と市が協力し合ってやっていくことだと思います。

どちらかといえば、むしろ、これまでは、明石公園は県のものだという形で、市は、一步、二歩退いていました。しかし、昨年からは、一昨年からはそうじゃない。

○嶽山洋志副部長

松本さん、まとめていただいて。

○松本誠

分かりました。ということですね、ぜひこの2つの件について、御検討いただきたいと思います。

ありがとうございました。（拍手）

○嶽山洋志副部長

はい、ありがとうございました。

そしたら縄さん、お願いします。

○縄雄介

縄雄介です。

今日、僕が質問させてもらうのは、明石市立旧図書館の件ですが、まだ全然、具体的ななんが見えない。

旧図書館がこっちに移ってきてから5年はたってるんですが、いまだ方向性が全然決まってないのと、昔は、解体して、県に返還するという話を聞いてますが、跡地のことも、全然まだ決まってないみたいなので、委員の皆様の利活用方法についてどう考えてはるか質問したいのと。

2つ目は、年間、明石公園で開催されてるイベントですが、全くイベントの情報発信がなく、SNSでも、見る方があまり少ないみたいなので、そういった、公園内でこういうイベントがありますという情報を、もっと来園者に広げてもらう方法とか、委員の皆様のいい意見を聞きたいので、よろしくお願いします。

○嶽山洋志副部長

はい、ありがとうございました。（拍手）

そしたら、第1グループの御発表は、以上3題ということになります。ここから20分……。

○事務局 小山

嶽山先生、竹内さんの発表が。

○嶽山洋志副部長

じゃ、竹内さんの御趣旨、それと、御発表の内容につきまして、私のほうで代読をさせていただきたいというふうに思います。

竹内さんは、明石市に御在住の方でございまして、緑化に対して、あるいは、自然に対しての造形の深いという方でいらっしゃるのかなというふうに思います。

○竹内佳代子

<副部会長代読>

コメントです。これ以上、木を切らずに、緑を保ちながら、緑を増やしつつ、景観を守る、守っていきましょう。動植物の生態系への配慮を、ぜひ配慮していただきたいということの御趣旨の話をしてくださっているというところでございます。

○嶽山洋志副部会長

ということで、以上4題ということになりまして、ここから20分ほど、質疑のほう、意見交換のほうをさせていただきたいなというふうに思っておりますけれども、どなたでも結構でございます。今日、傍聴で来てくださってる方々も、御質問、御意見いただいて結構でございますので、ぜひ活発な御議論をですね、期待したいと思いますから、どこからでも結構です。ぜひお願いしたいと思いますけれども、いかがでございますか。

じゃ、飯塚先生、お願いします。

○飯塚由美子委員

はい。いろいろ御意見ありがとうございます。

私は、明石障がい者地域生活ケアネットワーク理事長の飯塚と申します。

ある意味、この1の御提案については、もう正直な話、大賛成です。やはり、今ここに出ておられる方、特に私は、障害のある人たちの支援を四十数年やっておりますけれども、もうその中でも、どこに相談していいかわからないという課題が本当に大きいんですね。例えばですけど、障害がある子供を産んだお母さん方は、もうまずわからない、死にたいというところから入って模索していると、今後どうしたらいいんだろうというところがあって、そういう意味で言うと、ヤングケアラーのこともありますけれど、やはり、相談するところがここだというところがはっきりすれば、そして、それも、緑いっぱいの公園の中にあれば、何かこう、精神的にも安定しますし、ちょっと散歩がてら行ってみようかなという気にもなるので、この御提案は、私は、障害の関係の支援をずっとしてきた中では、すごくうれしいなという御提案だと思っております。

それから、松本さんのこの件ですね。私も、どこの県に行っても、旅行に行っても、お城に行っては、その歴史をずっと見ていくというところがある中で、あれ、って、自分は明石にいて、あれ、明石って何だったかなって、ちょっと分かってないこの勉強不足は申し訳ないんですけど、やっぱりこのすばらしい歴史のある明石、そこをもっとアピールするということは、もうとても大事だと思うので、私もこの御提案は、すごく大賛成です。ありがとうございます。

○嶽山洋志副部会長

はい。ありがとうございました。

はい。村上委員。

○村上裕道委員

すいません。委員をしております村上でございます。

松本さんにですね、ちょっとお伺いしたいんですけども、趣旨はすごく私と同じような感覚でございますので分かってるんですが、1つ教えてもらいたいと思うのは、今の明石城の魅力をもう少し向上させようと思ったら、具体的に、どんなことを足せばいいかなというようなお考えはございますか。その辺を教えていただきたいと思います。

○松本誠

すいません、ありがとうございます。

私は、明石の、明石城の魅力とおっしゃいましたけども、確かにお城は、これ、やぐらが2つあります。このやぐら2つの魅力を語るのではなくって、やっぱり明石城下町全体として、どんな町が、400年の歴史があり、それがどう変貌してきたのか、なぜここに、徳川幕府にとって非常に重要な拠点の城を築いたのかというですね、ことを分かるようにする。これは、明石の人間にとっては、やっぱり、この明石海峡ということが大きなことにあり、あるいは、旧街道が幾つも前後であるわけですから、そうしたことが、ほとんど今消え去ろうとしてるんですね。まだ、この明石の城下町、旧城下町のエリアの中で、ぽつんぽつんと点として幾つかあるんですね。大蔵の宿もあれば、中崎緑地もあれば、あるいは、という、幾つか残ってるんです。

これを、戦後やはり大事にしてこなかった、潰す一方、潰されるままにしてきたと、これを残して、みんなの市民の目がそちらへ行くためにはですね、城下町全体の資料館というのが必要だろうと。

全国のいろんな町の城下町に行ってもですね、お城だけを強調してるところはないんですね。やっぱりその町が、どのようにお城を中心に発展してきたのかという、あるいはそのロケーションも含めて、きちんと分かるようにしていくというのが、僕は、城下町資料館だと思っております。

○村上裕道委員

ありがとうございます。

先般、明石市のほうで、文化財保存活用地域計画という文化財ということについての計画をつくらせていただいたんですが、その中でも、一番のところですね、市全体の歴史が分かるように、そのロンドンなんか100年も前からブルー・プラークという標識で、その歴史の内容を少し書いたものを説明を入れていってるんですね、町が分かりやすいように。そういうことを、明石も一遍考えませんかというような提案はさせてもらってますので、またどこかでお話させてもらえたらと思います。

ありがとうございました。

○松本誠

ありがとうございます。

○村上裕道委員

続いてですね、松井さんのグループのほうにお聞きしたいんですが、この福祉の今お考えの施設がですね、やっぱり明石公園内が一番ベストな場所になるんでしょうか。その点を、もう一度教えていただきたいと思います。

○松井勝也（特定非営利活動法人陽だまりの会）

松井と申します。まず、立地的、物理的にですね、兵庫県全体を見回しても広い県ですけども、まず、問題なく明石と。それと明石公園は、前回の皆さんのお話しとおりに、本当、なじみのある場所ですし、特に、明石中心として、何とかここを、皆さんのお役に立つような施設にできないかというようなことがありまして、物理的、いろいろな面で、明石公園が最適だと思っております。

それと、場所以外のことなんですけども、御存じのとおり、6月、今年、さっき阿部が申しましたように、孤独・孤立推進法が国会で決まりました。数年前から、御存じのとおり、イギリスに次いで、孤独・孤立担当大臣もできております。今回、法律ができて、来年4月1日施行と聞いているんですけども、本部長は、国、内閣総理大臣を充てる、これ、もう本気で、この問題に全国で取り組んでまいります。そういう意味では、この兵庫県で、全国に先駆けてですね、このような生きづらさを持たれてるたくさんの方も、まずは個人的なことも含めて、そういう拠点ができないかと、そういうのを感じて、今回、提案させていただきました。

○村上裕道委員

もう一遍、そこに付け加えて聞きたいのは、そのプラットフォームの構築でお考えでございますので、その場所が、ほかのいろんな福祉系の諸施設等がそろってないところにぼんと入りますので、そうすると、そこに全て集めてくるようなお考えでございますか。

○松井勝也（特定非営利活動法人陽だまりの会）

はい。明石公園は、例えば、春はお花見、秋はモミジ、いろんな見者がたくさんいらっしゃいます。その中で、なかなか例えばおうちから出られない方たちも、このすばらしい明石公園に足を向けていただいて、その中で、御一緒にですね、人生を送っていくと、そういうような場所に、この明石公園がならないかと、そういう感じで、いつも思っております。

○村上裕道委員

どうもありがとうございました。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。

先ほど、飯塚さんがおっしゃったように、緑が非常に豊かな中にそういう施設ができるというのも、非常に大きなメリットなのかなというふうなことを感じて、県立公園の中に、そういう施設が今ないんです、全くないんで、多分、かなり新しい取組になるというふうに思います。その中で、明石市さんも一緒に連携していきながら、まちづくりで、一体的なことも、展開可能なイメージも湧いてきますので、ぜひその辺、うまく連携していきながら、やれたらいいなというふうに思います

○松井勝也（特定非営利活動法人陽だまりの会）

ぜひ、御検討よろしくお願いします。

○嶽山洋志副部長

はい。

ほか、いかがでございますか。

○丸谷聡子委員

おはようございます。明石市長の丸谷でございます。

今、旧市立図書館跡地の有効利用ということで御提案いただいたのですが、イメージは、兵庫県としてのそういう施設というイメージで捉えさせてもらったらいいんですか。明石市に必要というよりは、県の全体の中で、こういった支援の場所が必要というふうなことなのか、ちょっとその辺の確認をさせていただいたらありがたいです。

○松井勝也（特定非営利活動法人陽だまりの会）

できましたら、御一緒にやっていただきたいなと思っております。細部については、ちょっといろいろとお話の部分は出てくると思いますけども、県の土地、建物、明石市の持ち物という具合に聞いておりますので、いろいろ御議論をいただいて、できたら御一緒に、発信基地としてやっていただけないかと。

○丸谷聡子委員

兵庫県の発信基地ということですか。

○松井勝也（特定非営利活動法人陽だまりの会）

含めて。

○丸谷聡子委員

県立の施設というイメージですか。

○松井勝也（特定非営利活動法人陽だまりの会）

県立というか、はい、御一緒にやっていただけたらと思っております。広く先駆的な形でやっていただけたらと思います、県市一体で、はい。

○丸谷聡子委員

分かりました。

もともとここは、明石市が県からお借りしていた土地で、潰すにしても、明石市のほうでこの費用をとということなので、明石市のほうで、何か利活用させていただけたらという案も市のほうでもございましたので、県全体としてお願いしたいということであれば、またちょっと話も替わってくると思いますけど、ちょっと確認をさせていただきました。

そして、松本さんが提案してくださった、豊かな自然環境を市民の方に多く知っていただくためにミュージアムをつくるべきというほうの御提案だったんですけど、具体的に、あの明石公園の中で、こういった場所に、こういったイメージのものを考えておられるのか、もう少し、最後、ちょっとお時間がなかったと思いますので、教えていただきたいと思います。

○松本誠

すいません、ありがとうございます。

1つはですね、私は、みどりの相談所というのは、もともとそういうことを狙ってつくられたのかなというふうにこう思ってたんですね。だけど、なかなかそういう方向に行かずにですね、まさしく相談所と、いろんな人が使ってイベントをすとかいうふうに相談はあって、やっぱり自然環境を、先ほど申し上げた植生と昆虫とそして野鳥と、それ、そうした生物たちが、ここで、非常に貴重な一つ一つ、それぞれ貴重なのが、お互い有機的に、常に支え合いながらここを拠点にしておるというそのことが、この明石公園と明石の町のより深みをつくってるということですね。

やっぱり生態系、生態的に明らかにするようなミュージアム、うまいことよう言いませんが、そういうのをつくるに、明石公園はうってつけじゃないかということを、ここ1年来の議論の中で、非常に感じてるわけですね。

だから、例えば、イメージとしては、この間、その話をしたら、天文科学館のドームの中で、そこで、出来上がった明石公園の生態というものを、例えば、あのドームの中でも、最近のCGの時代ですから、見てもらうことだってできるでしょうと。明石公園だけのそういうような施設を造らなくても、新たなハードの建設を私は提案してるんじゃないくて、ソフト

のいろんな研究とか、あるいは、こつこつと地道に、明石公園の自然の生態を調べられてる人がいるわけですから、その情報とか研究成果とかいうのも、やっぱりみんなが共有できるようなチャンネルをつくる、場をつくっていくことが非常に大事だと思います。

だから、そういう意味では、単なる植物園の案内でもなく、やっぱり自然と、豊かなその自然の生態系と、人々の都市の暮らしがどのように相互に関係してるかという、まさしくSDGs時代にふさわしいですね、そういう有機的な関係も明らかにしていくような、そういう、だから私は、ミュージアムと申し上げたんです。これを、ぜひ、やっぱりつくりたい。つくるのは、それは、みどりの相談所をもっと拡充して広げていく手もあれば、今言ってる旧図書館跡を活用する手もあるし、様々なやり方があると思うんですよね。

私、申し上げてる、何度も言いますけど、箱物じゃなくって、中身にどんなソフトを詰めていくかという、これを、市民の知恵の創意を集めてつくっていくというその方法論は、今、時代が様々なに進歩してますので、いろんなツールがあると思うんですけど。そういうものを駆使したミュージアム、明石公園自然環境ミュージアムのようなものができれば、もうすばらしい、これはアピールになるんじゃないかなというふうに思ってます。

○嶽山洋志副部長

よろしいですか。はい、ありがとうございます。

結構今回、去年からずっと活動が続けてる中で、小林先生を含めて、いろんなデータが現場にあるなという。おっしゃるように、植物なり昆虫なりで。その何か取りまとめる本でいうと目次みたいな、そういう機能があって、そこからちょっとして現場に向かうみたいな、そういう機能みたいなものが、みどりの相談所のようなところに、ミュージアム的にできるといいなというふうに、高田先生とかは「ひとく」だから、博物館のような手法を持っではるわけなんで、そういう手法を使いながら、ちょっと実験的にもできると、かなりいいんじゃないかなというふうに思ったりするんですけども、高田先生、いかがですか。

○高田知紀部長

はい、ありがとうございます。

私も、公園の中に、今、松本さんがおっしゃったように、箱物じゃなくて、ミュージアム的な機能をという考え方は、すごくいいと思っていて、博物館という、何か建物の中に決まった展示があってというイメージを持ちがちなんですけども、明石公園って、もう恐らく、全体が展示というか、ミュージアムとして活用できるという、なんですよ、その外も、ミュージアムの一部というような。なので、すごく屋内の機能に限定するんじゃなくて、外とその知識とをつなぎ合わせながら、明石公園のことを知って、それを知った人がさらに公園に愛着を持つような、そういう仕組みというのをどういうふうにするのかというのは、すぐに考えられるかなと。

今あるみどりの相談所に、少しちょっと展示と展示物を工夫して、それを、外の生態系と

か、あるいは史跡、物語とつなげることによって、あ、これを見に外に出ていこうというふうに思ったりするようなことというのは、恐らく、そんなにお金もかけずに、すぐに実験的にできるかなと思うので、そういうことを、ちょっと実験的に、今あるスペースを使いながら、さらにこれを拡充させていくためにはどうしたらいいかというような議論を進めていくというのもいいかなと思いましたけど、そういうイメージは、例えば松本さんとかはどうですか。今、私、お話を聞いてて、そういうことも、すぐに取り組めるのかなと思ったんですけど。

○松本誠

全くそういうことです、同じことですね。

私がずっと考えてるのは、せっかくこの明石公園部会に、人と自然の博物館の先生と、景観園芸学校の先生がいらっしゃるわけですね。僕はやっぱり、これ、明石公園の自然環境ミュージアムを、まずサポートするか、支えていくのが、人と自然の博物館と県立大学、そして、同じ県立大学の景観園芸学校のここを1つのフィールドとしてね、むしろここに、現地のフィールドの研究所みたいなのがあってですね、そこから順番に広げていくということ、だから、公園と学術と、そして、市民のいろいろな形のボランティア活動とが一体化したような、そういう新しいミュージアムができるんじゃないかなということを、常々に夢想してます、夢見ております。

○高田知紀部会長

ありがとうございました。

それにちょっと関連して、1点、松本さんが、民間活力の導入のところで、企業だけでなく、市民力の力を民間活力として捉えるという視点、これも私、すごく大事な視点だなと思って、やっぱり今、うちの博物館でも、最近、ちょっと国立科博のあのクラウドファンディングのニュースがかなり話題になってましたけれども、やっぱり公共の博物館でも、いろいろ光熱費の高騰とかで運営が厳しくなってるというのは、もうあれにすごく顕著に表れてるんですけど、そういう予算的な話だけではなくて、民間のデザイン力とか、企画力とか、何か商品開発能力とかというものを、博物館の中でも生かしていこうということが、うちの博物館でも、積極的に取り組んでいるところで、そういう今言ったような理念を生かすときに、どういうパートナーがいるのかとか、どういうパートナーだったら、こういう理念を実現できるのかということを議論して、その先に、例えば、それが民間の企業なのか、NPOなのか、市民なのか、いろんなパートナーの連携先が考え得ると思うんですね。

民間活力の導入というのは、そういう広い意味で、私は捉えたらいいんじゃないかなというふうに思っていて、その辺りは、松本さんも、多分、もともとの、何か公園がショッピングモール化するようなイメージに、ちょっと抵抗感があって、ああいうことをおっしゃったのかなと思うんですけど、今、私の言ったような民間の捉え方というのは、どういうふうに

お考えでしょうか。

○松本誠

よろしいですか。

○高田知紀部会長

はい。

○松本誠

ありがとうございます。

おっしゃるとおりですね、私は今、この明石公園部会で議論されている1つの合意形成の場づくりというのがあります。合意形成の場づくりというのは、抽象的な概念、抽象的にどうやって皆の意見をまとめましょうかなんてやったって、なかなか進まんわけですよ。それは、具体的な1つの課題に向かって、このテーマについて、どうやってみんなの意見をまとめていくか、あるいは知恵を集めていくかというプロセスが、合意形成のプロセスやと私は思うんですよ。そういう意味では、そういう明石の豊かな自然環境を情報発信していくためのそういうのに学術の分野からも、あるいは市民活動の分野からも、様々な研究者、民間の研究者、そういう人たちが一緒になって、ここをミュージアムとして、発信していくものをつくっていかうという目標を持って、初めて、そこで合意形成になる。

これは、先ほど申し上げた城下町明石の資料館をつくっていくということに、それに関心の強い人たちが集まって、やっぱりそこで、1つの合意形成が生まれていくというふうな、そういう意味では、合意形成の1つのツールとして、この私が提案した2つのテーマが、物すごい幅広い人たちが、結集できる材料になるんじゃないかなと思ってます。

○高田知紀部会長

ありがとうございました。

○嶽山洋志副部会長

ありがとうございます。

そしたら最後、はい。

○村上裕道委員

ちょっとだけいいですか。

今の話全体として、私、大賛成ですけど、そこに1点だけ付け加えてもらいたい私の希望があるんですよ。それはね、南北の人の流れを、もう少し増大させたいという気持ちがある。僕、公園の中で、完結的になるのがあんまり好きじゃないというのは、せつかくこの駅のす

ぐ南に、こういうハードの施設が、大きいのがあって、向こうと人が動くぐらいには、そんなに距離がないんで、ここからだ。そうすると、今、フィールドとして、あの公園の中を全体を考えて、サテライトのちっちゃいの、いろんなものをつくるのは別に構わないんだけど、こちらのほうの施設と向こうとがコラボレーションを起こすような形にすれば、もう少し、こちらから駅の南から北側まで、人が歩き始めるんじゃないかなと思ってましてね。そういうのを、今の話とはですね、全部うまく組み合わさるなと思ってましたんで、ちょっと僕の気持ちだけ、プラスアルファしていただければありがたいということです。

○松本誠

ちょっと1つだけ、おっしゃるとおりなんです。

実は、明石市が、この駅前の再開発、図書館のある、あの事業を行うときにですね、駅前の拠点としてつくって、今度は港周辺なんだと、南部なんだと。港というのは、明石の城下町の発祥なんです。非常に今も、たくさんの資源が詰まってるんですよ。そのところをやると言ってから10年間、全く手をつけてない。

実は、港のそこ、まさしく南北軸なんです。港があって、町なかのにぎわいの商店、商業地域があって、そして公園があってというふうに。このこの流れ、循環をですね、人と、どういうんですか、テーマの循環を考えれば明石は素晴らしい町になるし、それを考えなければ明石はだんだん廃れていくだろうというふうに思ってます。

○嶽山洋志副会長

ありがとうございました。

それでは、時間もそろそろ参っております。私のほうで、少しまとめをさせていただきますと、4点ほど、話題としては挙げられたかなというふうに思っております。

まず1点目は、旧明石市立図書館跡の活用。縄さんのほうからも、どのように使っていったらいいのかという御意見ございましたけれども、もうまさに総合的な福祉施設として、なんとか拠点づくりを目指していけないかというふうな御提案が1つあったかというふうに思います。

その流れの中で、明石城も含めて、明石市と兵庫県の一体的なその環境整備だったり、まちづくりの在り方だったりというのを議論していくような、これ、多分、談議所とか、そういったところで、また議論できたらいいんじゃないかなというふうに思ってるところでございます。

それから、ミュージアムというキーワードがございましたけれども、明石公園の中の自然環境や歴史環境、人と自然のつながり、そういったものをまとめられるようなミュージアムというものを公園の中にも設置していったらどうかというふうな提案。

その活用に当たっては、4つ目になりますけれども、民間力と、もう幅広い、ある面での民間力というものを使いながら、それも含めたより合理的な活性化というものを目指して

やっていけたらいいんじゃないかというふうな御提案があったかなというふうに思います。

もう1回目から、大分、具体的な提案がかなり出ていたかなというふうに思います。これをしっかりと次につなげていけるように、また、あり方検討会の中でもやっていけたらなというふうに思います。

どうもありがとうございました。皆さん、拍手のほうをよろしくお願いします。（拍手）

はい。それでは、5分休憩いたしまして、第2組のほうの発表に入りますので、日本野鳥の会の岩崎様、田中様、それから、地球love明石の中川様、また、お時間になりましたら、前のほうにお願いいたします。

[休 憩]

◇第2グループ

○嶽山洋志副部会長

そうしたら、第2グループの発表に入りたいと思います。

全部で3題ございまして、1題目は、今日、ちょっと御欠席ということでございまして、先ほどと同様、私のほうで代読させていただきたいというふうに思います。

加古川市在住の勝連様からの御提案でございます。

○勝連譲治

<副部会長代読>

イベント案で、この時期には、会社帰りの人たちを狙って、ビアガーデンならぬ、ビア公園というのはどうかと、あるいは、デカイ、大きいビニールプールとかで、ちびっ子の水遊び場、そういったものも、非常に面白いのではないのかなというようなことで御提案をいただいております。

○嶽山洋志副部会長

結構舞子公園とか、ビアガーデンイベントをやってらっしゃるかなというふうに思いますので、この辺りの事業というのは、もうすぐにでもできる事業なんではないのかなというふうに思ったりしております。

ありがとうございました。

それでは、日本野鳥の会のお二方、それから地球love明石の方、続けて御発表いただきたいと思います。

まず、日本野鳥の会の岩崎様、田中様、よろしくお願いします。

○岩崎健二、田中葉子（日本野鳥の会ひょうご）

こんにちは。私は、日本野鳥の会ひょうごの代表を務めています岩崎です。こちらが野鳥の会会員で、明石公園の調査にも関わっていただいている田中です。よろしくお願いします。

じゃ、駅からすぐの明石公園は、たくさんの鳥にも出会える公園で、当会では、長年にわたり、定期的な探鳥会や、子供さんを対象にした自然観察会を実施してきました。身近で歩きやすい立地のため、探鳥会では、参加者が100人を超える大変人気の探鳥地です。野鳥だけでなく、草花やチョウ、トンボ等の昆虫類の癒やしを求めてきている来園者も多くおられます。

また、当会では、1984年から38年間に、野鳥の通年調査を4回行い、総種類数で94種を確認しました。よく野鳥が観察された場所を示す図として、配布資料の1枚目を御覧下さい。

これは、当会の会員に向けて発行している会報コウノトリに掲載した昨年度の調査報告記事の一部です。上の図は、2005年の調査と、昨年の調査と、同じ場所の記録を比較したものです。色がついた小さな丸が鳥を確認した場所で、下の図6は、昨年の渡り時期の鳥類の記録を図にしたものです。どちらも、樹林がある場所を利用しています。

それから2枚目の、ちょっと簡単に書いた野鳥マップですけど、明石公園で見られる、こういうところで見られるかというような野鳥マップがありますけど、こういう外堀やこの中の桜堀ですね、こういうところの樹木の下には、結構鳥がいるんですよ。例えば、すごく人気のあるカワセミだとか、冬場でしたら、カモなどの鳥が隠れる場所ですね。隠れる場所や、餌を取る場所として、こういう樹木を利用したりしています。

また、子どもの村周辺の樹林では、春や秋の辺りには、小鳥たちの貴重な休憩場所、エネルギーの補給場所として利用されています。

調査のほうですが、4回の調査で、飛来する鳥類に変化が見られ、回を重ねるごとに、種類数は増加してきました。これは、野鳥が、周辺に立ち寄る場所がない、広い樹林地のある明石公園に寄らざるを得ない状況に追い込まれているとも考えられます。

その状況を説明できるのが、配布資料の3枚目のこの3つの地図ですね。公開されている1946年の航空写真を基に、明石公園の周辺の緑地を含む農地を図に示しました。一番上の77年前は、明石公園周辺の住宅地は非常に少なく、広い農地や緑地に民家が点在していました。しかし今は、すっかり市街地となってしまいました。このような状況で、明石公園が、都市の中のオアシスとして、非常に重要な場所となっています。

明石公園は、地理的にも野鳥が集まる位置にあり、人にも、渡り鳥にも、癒やしの場所と言えます。先人たちが残してくれた貴重な自然環境を持つ明石公園は、いろいろな事情で、遠くに出かけられない人たちにも自然環境に浸っていただけますし、子供たちや大人までの環境教育にも非常に貢献してきましたし、これからも、していくと思われます。

日本野鳥の会としては、人と自然が共生できる身近な公園として大いに利用し、他の団体の皆さんや市民の方々と共に活動し、明石公園の活性化に協力していきたいと思っています。

以上です。

○嶽山洋志副部会長

ありがとうございました。（拍手）

それでは続きまして、中川様、よろしくお願いします。

○中川夏望（地球love明石）

地球love明石の中川夏望と申します。

地球love明石は、子育て世代の母親が中心となり、豊かな自然を未来の子供たちへつなぐための活動をしている団体です。

現在私は、3歳と5歳の娘を育てています。もともと関東に住んでいましたが、2人を連れて旅行に来た際に、駅前にもかかわらず、豊かな自然あふれる明石公園に心から感動しました。こんなすてきな町で子育てができればどんなに幸せだろう、そう思い、明石に移住を決めました。

本日のテーマ、明石公園に関する活性化についてですが、私は、子供たちが毎日遊びに来くなるような、豊かな自然と触れ合える公園にしていきたいと考えています。

御存じのとおり、明石市は、「こどもを核としたまちづくり」を掲げ、明石駅南側に子連れのママが集うようになり、町がどんどん活性化していきました。明石公園は、駅前にもかかわらず、広大で、自然豊かな公園です。このメリットを生かし、子育て層を取り込むさらなる好循環を生んでほしいと考えています。

例えば、大阪の堺市には、森の学校をテーマに、人と里山との新しい関わり方を学び、里山文化を継承する場とした堺自然ふれあいの森があります。このような公園が、明石駅前にできたら、平日でも遊びに来られますし、車のない家庭でも気軽に自然と触れ合うことができます。この堺ふれあいの森は、毎月、子供から大人まで幅広い方を対象として、自然観察や収穫体験など様々なイベントをたくさん開催しています。

また、里山環境の保全管理活動や環境教育プログラムの提供などを行っています。明石公園でも、自然を紹介するような、常設の設備や案内できる人を常駐できる仕組みを整えてはいかがでしょうか。ぜひ、このような自然をコンセプトとした公園をつくっていただきたいと切に願います。

その上で、明石公園に人を呼び込むためにお願いしたいことが2点あります。

1点目は、堀の水質をきれいにしてほしいということです。この堀は、明石城を見たときに、その美観を損なうほど汚れた水で、今のような夏場では臭いも発生します。

東京都では、都立公園の池の水質改善や、生態系の回復を目指して、かい堀りを実施しています。明石公園の堀や池も、定期的にかい堀りを行い、水質を浄化してはいかがでしょうか。水中の養分を海に流すことで、養分不足が問題となっている瀬戸内海の豊かな海づくりにも貢献します。兵庫県も、東京都のように、定期的なかい堀りを実施していただきたいと思います。

2点目は、手前のこども広場に、子供が遊べる遊具が欲しいということです。奥の子どもの村に、インクルーシブ遊具の設置工事が行われていますが、私たちは、ふだん、子供を連

れて、あんなに遠いところに行きません。車で来ても、手前のこども広場でよく遊びます。

しかし今、こども広場の遊具は、かなり老朽化が進んでおり危険なため、半分くらい使用不可になっていて、子供が思い切り遊べる状況にありません。これを機に、ここに新しく自然と調和するような魅力的な遊具を設置すれば、さらなる集客が見込めますし、大人のイベントがある際にも、子供を連れてきやすいです。

例えば、香川の国営讃岐まんのう公園にある雨天でも遊べるふわふわドームのようなものがあると、とてもうれしいです。ぜひ設置を検討するとともに、使えないスペースを、大至急、何とかしてほしいと切に願います。

明石公園は、好立地と豊かな自然という集客が見込めるポテンシャルのある公園です。私は、明石公園自体を、収益性のある場所にするより、明石公園がより魅力的な公園となり、明石に人を呼び込むことができる公園になってほしいと考えています。それが、公園の利用者であり、周辺の事業者である兵庫県民にとってのメリットになるのではないのでしょうか。ぜひ、これからも明石公園の自然を守り、子供の笑顔であふれる公園にしていきたいとお願いし、私の意見発表を終えたいと思います。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

○嶽山洋志副部長

ありがとうございました。

ただいまの御発表に対しまして、御意見、御質問をお聞きしたいと思いますけども、いかがでございますか。はい。

○丸谷聡子委員

発表ありがとうございました。

まず、日本野鳥の会ひょうごの発表なんですけれども、もう本当に、この悉皆調査、この間、年間通して、雨の日、暑い日も、寒い日も来ていただいて、本当にありがたいと思っています。

その中でですね、今、この情報誌も見せていただけてるんですけども、過去に4回、初回が1989年、2回目が1994年、3回目2005年と今回2020年の4月から1年間調査してくださって、その大きな変化ですよ。樹木伐採によって、野鳥の変化が具体的にどうであったのかというのを、もう少し分かりやすく教えていただけたらと思いますけれど。

○田中葉子（日本野鳥の会ひょうご）

野鳥は、どんな環境にでもいることはいるんです。町の中でも、スズメとかハクセキレイとか、だから、木を切ったところは、鳥の種類は減ってはいますけど、鳥の数は、そんなに減ってはいないんですね。

その出てきてる鳥が、やっぱり市街地の鳥、ムクドリとか、樹林地とは、鳥の種類が違い

ます。樹林地にいるのは、さっきも話したように、渡り鳥とか、繁殖をする夏鳥とか、越冬する冬鳥とか、だから、そういう鳥たちのいる面積は減ってはいます。でも、鳥の全体の数とか種類を明石公園全体で挙げていくと、中身は違うけども、そんなに減ってはないということになったんです。

○丸谷聡子委員

これ見たら、個体数が何か半減してるんですけど、そこは。

○田中葉子（日本野鳥の会ひょうご）

だから、個体数、今回の。

○丸谷聡子委員

この2022年度と2005年度の伐採地域の種類数と個体数で、種類数は増えてるんだけど、個体数は半減しているんです。

○田中葉子（日本野鳥の会ひょうご）

だから鳥の数は減ってる。だから、留鳥的な鳥はいるんだけど、林の鳥は、また個体数が減ってる。でも、種類は増えてるんですね。だから、それは明石全体の緑地が減ってるということにも関係してるのかなというふうに考えています。

○丸谷聡子委員

ありがとうございます。

切ってしまったものは、これからどうしていくかということなんですけれども、これから、野鳥って、野鳥は野鳥だけで生きるんじゃなくて、生態系の上位にいるもので、野鳥を指標として、その地域の生態系というのが判断されると思いますので、そこで見られる種類によって、この明石公園の生態系がどうなってるかって一定評価できると思うんですけれども。今後、この明石公園でこういった野鳥を通して利活用ということなので、こういった明石公園であれば、こういう野鳥たちが生き生きと暮らしながら私たちもそれを感じられるような公園になるかというのを、もし御提案があったら教えてください。

○岩崎健二（日本野鳥の会ひょうご）

私たちがやってるのは、先ほどもちょっと触れましたように、探鳥会とか、自然観察会を中心に活動してますけど、そういう気軽にできる場所でもありますから、先ほどおっしゃってたような、みどりの相談所をもっと広げたら、そういう拠点があって、情報発信ですね。こんな鳥が出ましたよ、ここにはこういう鳥が来てますよというような情報発信をしながら、皆さんに関心を持っていただいて、気軽にですね、私たちが主催する観察会に来るだけ

でなく、個人個人がその情報を見て、鳥と触れ合ってもらったり、昆虫や植物と関心を持って触れ合ってもらったりできるようになったらいいかなと思ってます。

一番私たちが具体的にできることというのは、自然観察会ですよね。それは、健常者だけでなく、障害を持った方や子供さんたち、ちょっと高齢の方を対象にした、そういう観察会もしていけることができたかなと思ってますし、実際、野鳥の会でも、そういう視覚障害者の方が対象の観察会というのをやったりしてますから、そういうものを、どんどんどんどん明石公園でやっていけたかなと思ってます。それは、もう身近な公園であるからこそ、明石公園を利用できると思いますけどね。

○丸谷聡子委員

ありがとうございます。

そういう意味で、本当に今回、小さなお子さんがいらっしゃる子育て世代のお母さんが、こうしてちゃんと御意見を言っていて、本当にありがたいなと思ってます。

もうそういう中で、今、例えば野鳥の会の方が、こういうふうな活動をされてるとか、あと、先ほどの御質問、御提案の中で、自然観察のことができるような拠点みたいなものがあつたらいいなというようなお話があつたと思うんですけど、そういう小さいお子さんがいらっしゃるお母さんとして、どういう場があつたらとか、どういうふうな、例えば野鳥の会の方とかでも、どんな場をつくってくださったり、どういう情報があつたら、もっと明石公園の中で、子供と一緒に、自然を感じながら楽しめるなって、何か思われるようなことが、もしあつたら教えていただけたらと思います。

○中川夏望（地球love明石）

この配布資料を拝見して、明石公園野鳥マップのカワセミ、「こどもたちのあこがれの鳥です。」この一言とか、私、これを見て、ちょっと見せたいなと。ふだんよく遊ぶエリアにいるみたいなので。でも、ただ私が、ちょっとカワセミも分からないし、例えば今、明石に住んでますけど、飛んでる鳥は、大体トンビって教えてるんですけど、多分違うと思うんですけど、いや、これ、聞きたいなと思いつつも、その場がどこにあるのかも分からないですし、もし、明石公園のここに行けばこれに詳しい人がいるとかだったら、そういう話も聞けますし。例えば、花とか虫だったら調べれるんですけど、鳥って、なかなか携帯で調べることが難しいので、そういう場がやっぱりあれば、そういう方が常にいらっしゃるとか、そういうのが分かれば、私はうれしいかなと思います。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。

そうですね。本当に拠点みたいなものがあつたほうがいい対象物かなというようなことで、おっしゃるようにスピードが速いので、目で追えなかったり、捕まえられなかったりと

というようなところがやっぱり難しい部分かなと思うんですけども、何かそういうセンターみたいな施設があれば、そこで、ちょっと身近に触れて学んでから、距離のあるところのものを見たりとか、あと、そこで物を貸してもらって、双眼鏡を借りてから出かけるとか、そういう感じのものとかがいいですね。

○中川夏望（地球love明石）

いいです、いいです。

○嶽山洋志副部長

多分、何かそういう拠点と、非常に距離のあるテーマだったりすると、そういうところをうまくつなげていくことができるかなというふうに思ったりして。

○岩崎健二（日本野鳥の会ひょうご）

一番最初に言いましたとおり、一部の人も言われてたように、情報だと思うんですね。一番にね。それが発信できて、気軽にそれを取り入れて、さっきおっしゃったような、双眼鏡を借りてぶらっと行ってみようかとか、もし案内できる方がそのときにおられたら、一緒に共に観察したりとか、そういう人を増やすというのも、また1つの手かなと思いますよね。

○田中葉子（日本野鳥の会ひょうご）

それと、こちらから情報提供するだけでなく、こんなんがいたよとか、子供たちって、すごく鳥を見つけたりするのが、本当に、耳もいいし、点のような鳥だって見つけてくれるし、だから反対に、皆さんのほうから情報を得たいというのもあります。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。

○岩崎健二（日本野鳥の会ひょうご）

だから、その場所に行けば、今日出た鳥がどこにいるかいうのを、リアルタイムで、参加者というか、来園者の皆さんと一緒に協力し合ってそういう情報をつくり上げていくという、そのほうがいいかなとは思ってますけどね。

○嶽山洋志副部長

いいですね。もうそういう、管理者の、これもすぐ何かできるような話かもしれないですけどね。

はい。

○村上裕道委員

地道にですね、本当に地道に、いつ、どこで、どういう鳥がいるか観察してもらって、本当にありがたいと思っております。

それともう一点は、やっぱりオアシスになってるところがだんだんと1点に集中してきてるというお話もよく理解させてもらってます。その中で、僕らがいつも思ってるのは、今、情報の発信が、非常に大事なんだということをおっしゃって、そのとおりだと私も思ってるんですが、その情報の発信をする場所をですね、今は、さっきから何度も言うように、その公園の中だけで完結するイメージですけども、今の時代でございますから、そこで出してる情報はですね、なんぼでも、どこにでも飛ばしていけるんですよね。だから、明石の市民が毎日ぱっと歩いて、あ、今日はこの鳥が来てるのかというような、そういう情報が、ぱっと入ってくるのが、場所が、どこが一番いいかなというのは、デジタルサイネージでもいい今考えられますから、そういうようなイメージで、もう一度、ちょっと効果的にですね、考えたら、どういようなイメージの伝え方がいいかなというのは、本当に、毎日考えておられる方々でございますので、またちょっと、どこかの機会で教えていただければなと思っていますので、よろしくお願いいたします。

○嶽山洋志副部長

ほかは、いかがでございますか。

○飯塚由美子委員

はい、よろしくお願いします。

まず、野鳥のほうは、もう自然があれば、どんどん増えていっていいなということで、非常にいいことだなとは思っております。

それから、子供さんが、自然と触れ合って遊べるというところでは、いろいろな例を出していただいて、ふわふわドーム、後で調べようかなとは思っております。

それで、先ほどの1回目のお話の中で、私、いいなと言って、障害のある人たちとか、ジェンダーとか、いろんな人たちが相談できるそういう場所というところの中に、1つ質問なんですが、魚住に、インクルーシブ遊具というところで、大きな場所ができました。ただ、うちなんか、肢体不自由のお子さんとか、いろいろな子供たちが、土日しか行けないので、お父さんが休みの、行けないので、行くと、やはり、もう元気な子供たちがそこをぱっと遊んでるんで、結局障害のある子たちって、そこで遊べないというところで、何もしないで帰ってきましたという声がよくあるんですね。その中で、先ほどの障害のあるというところのところで、最後に質問しようかなって思ったんですけど、できなかったんです。

やはりインクルーシブという、インクルージョンというところをしたときに、中川さんの子供という視点の中で、やはりみんなが集えるような場所、インクルーシブ遊具は、上のほうにできるというところもあるんですが、何かみんなが集えるという視点で、もちろんお考

えだと思いながら、あえて聞くんですけれども、やはり障害があろうがなかろうが、みんなが集えるという視点となったときに、まず、ちょっとこの辺は意識しますよというような、すごいざっくりな質問で申し訳ないですけど、その辺を少し、子供という全般じゃなくて、ちょっとそこも入れていただいた何かの案があれば、教えていただきたいなど。すごい抽象的で、申し訳ありません。

○中川夏望（地球love明石）

難しい。障害のある子供にとって、どういうものがあればというか、そういうことですよね。

○飯塚由美子委員

そうですね。インクルーシブ視点で交えてやっていける。やっぱり、排他的になっちゃうんですよ、現実には。だから、そこも含めた中で、もし今、お答えできなかったら、ちょっとその視点も考えていただけたらなというようなことです。すいません。

○中川夏望（地球love明石）

やっぱりその肢体とかが、元気な体を動かす場所がちょっと欲しいなという意味で、今、ちょっとこういうふわふわドームとかのお話はさせていただいたんですけど、また、それは難しい、遊具という意味では大分難しくて。

○飯塚由美子委員

遊具じゃないんですけど、その辺りの、誰でもが集える自然を学べるというところでの視点でいいんですけども、頭の中に、子供というところを想像されてお子さんを見られたんですけれども、そこに、やっぱり、子供にもいろいろいるんで、その辺りのところをちょっと含めて考えていただけたら非常にありがたいなというところで、意地悪な質問をしました。すいません。

○中川夏望（地球love明石）

いえ、いえ。

○嶽山洋志副部長

今おっしゃったように、その遊具は下のほうにできるというようなことがあるので、その2つ選択肢ができるよねというようなところが、1つは、この明石公園の特徴的になっていくのかなというふうには思ったりとかという話と、もう一つ、去年、これって、出てきたかもしれませんけど、いわゆる障害理解みたいなところで、やっぱりいろんな人たちが、そういう形でのつながり合いみたいなことができる、あるいは、していこうとする意識を持つ

とか、何かそういうふうな、みんなの理解みたいなところをベースに置くことが非常に大事なのかなというようにことを思ったり、もっと言うと、そういう専門職の方がその現場にいたりという、ハードな話ではなくて、そういう人と人をつなぐような、子供と子供もつなぐような専門職の方がいらっしやると、よりスムーズなのかなというふうには思ったりとかはしますけども、なかなかその辺は難しかったりするんですが。

○飯塚由美子委員

すいません。

○嶽山洋志副部長

明石公園の中に、明石市の中に、インクルーシブ遊具があるし、明石公園の中にも2つ、3つできていくというようなことを考えていくと、それだけ明石という町全体で見れば、かなり選択肢は広がっていくのかなというようにことはすごく思います。ここが駄目なら次に行こうというふうなことで、そういうふうな形で関わっていただけると、非常にいいのかなというふうに思います。

はい、松本さん。

○松本誠 ※ヒアリング参加者

すいません。ちょっと質問なんですけども、野鳥の会の方の資料の最後ですね、この分ですが、77年前と43年前と現在と、この衝撃的な、考えてみたらそのとおりでなんですけど、当たり前なんですけども、だから、明石公園の、いわゆる野鳥が増えているというふうに、私、そうやって聞こえたんですけども、周辺に緑地がなくなってしまったから、鳥は仕方なく、明石公園に来ている。鳥は、地つきの鳥と渡りの鳥と両方あると思うんですけども、実際に、定性的には分かるんですけども、定量的にですね、この3つの時代区分で、明石公園に来ている鳥が、どのくらい増えてるのかという定量的な調査データというのはあるんでしょうか。鳥の種類だとか、あるいは飛来量だとか、この辺の何かデータはあるんですか、ないんですか。

○岩崎健二（日本野鳥の会ひょうご）

野鳥の会として持ってるのは、先ほど示しました1枚目の資料でしたかね。明石公園の定例調査、調査は、今まで、38年間に4回行って、その結果というのが、結果の一部ですけど、ここに具体的に示されるものは、こういうものですね。

だから、77年前からはどうかというと、具体的なものはありませんけど、やっぱりその周辺の農地に来る鳥と樹林帯に来る鳥というのは、ちょっと違うものがありますけど、農地だけじゃなくて、緑地、特に明石川の河畔林なんかも、きれいに整備されてなくなってしまったと、そういうところの鳥は、もう明石公園を頼らざるを得ないというようなところありま

すよね。

ただ、残念ながら、明石公園とかこの周辺だけじゃなくて、日本全体で、野鳥の数が、やっぱり環境の悪化とか、温暖化の影響もあるのかもしれませんが、数が減っているというのはもう事実ですね。ただ、狭い範囲で考えると、やはり餌を取る場所だとか、休む場所だとか、夜を越す場所としては、明石公園というのは、周辺の市街地では暮らせないというか、そういうものは、明石公園にやってきて増えてると思いますけど、全体の数が、野鳥の数が減ってるというところがあって、そんなに、77年前に比べて周辺の緑地が減ってるから、それに比べて増えてるという、ちょっと言いづらいところがありますよね。

○松本誠 ※ヒアリング参加者

ありがとうございます。

○岩崎健二（日本野鳥の会ひょうご）

だから、こういう少ない中で、野鳥が暮らしていける明石公園、緑のたくさんある公園というのは、もう本当、どんどんどん貴重な存在になっていくと思うんです。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。

今回、定量的な調査もされて、次、環境の変化が起きたときには、このデータは、かなり生きるだろうなという印象は、感じもあります。

それでは時間がそろそろ参りましたので、少し、私のほうで、中間のまとめをさせていただきたいと思います。

一番最初のお話にございました、先ほど1回目の話と同じように、やはり、学びを深められるネイチャーセンターのような施設、これがあるといいよねというふうな話だったかなというふうに思います。

その中で、子供たちを含め、いろんな方々からの情報発信、情報の発信というか、情報のまず収集ですね。子供の情報もばかにならないみたいなのところがありまして、そういった子供から大人まで幅広く情報を収集し、そして場所も、公園の中だけじゃなくて、いろんなところから発信していくような形、そういったことを意識して取り組む必要があるだろうということが、2つ目にあったかなというふうに思います。

3つ目に、インクルーシブな在り方として、明石公園は、やっぱり複数の公園があるので、遊具があるので、その辺りもうまく使い回しながら、いろんな形での方々の関わりとかみたいなことを、公園全体として、あるいは明石市も含めての公園も含めて、多様な子供たちの関わり方みたいなものを推進していこうというふうな議論があったかと思います。

以上で午前の部を終わりにさせていただきたいと思いますが、まだあと3グループ午後にございますので、また1時半になりましたら、こちらにお集まりいただきまして、午

後の部のほうを開始させていただきたいと思います。

高田先生、すいません、2回目のちょっと御意見を聞くのを忘れてました。また、午後にお願いします。

○高田知紀部会長

はい。

○嶽山洋志副部会長

ということで、13時半まで休憩とさせていただきたいと思います。どうもお疲れさまでした。（拍手）

[休 憩]

○嶽山洋志副部会長

そしたら定刻になりましたので、午後の部を始めさせていただきたいなというふうに思っております。

午前にもお話をさせていただきましたように、本日、高田部会長におかれましてはオンラインでの御参加となっておりまして、進行は、私のほうでさせていただこうと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

テーマは、公園の活性化ということで、多方面から公園を盛り上げていくための話をいただけたということで、御発表は1班5分ずつ、そして、1人、4グループ全員にお話しただいた後に、総合ディスカッションという形で、20分時間を取ってございますので、その流れで進めさせていただきたいと思います。

それではまず、明石高校理数探究類型生物班ということで、岩崎先生、黒木様、糸様、よろしく願いいたします。

○岩崎善行、黒木佳乃、糸美涼（明石高校理数探究類型生物班）

皆さん、こんにちは。明石高校理数探究類型3年の黒木です。

私たちは、先輩の研究を引き継いで、先輩たちが提唱した「明石公園の魅力UP大作戦」を昨年度、実践に移しました。明石公園を自然の学びの場という提案を受け、昨年度の7月、11月、3月に、小学生や市民の方々と一緒に、明石公園の樹木に銘板を取り付ける取組を行いました。そして、植物の多様性を高める草刈りの提案を受け、9月に、市民の方々と一緒に、稲荷曲輪と子どもの小川周辺の草刈りを行いました。いずれも大成功でした。

しかし、私たち高校生だけではできることに限りがあります。そこで、協力してくださる市民の方を、明石公園応援隊とし、市民に呼びかけましたが、反応がありませんでした。今日このような集まりに、たくさんの市民の方が参加されています。私たちの呼びかけだけでは力不足でしたが、大人の方がつくってくだされば、きつとうまくいくと思います。

私が、これらの取組を通じて感じたことは、小学生や市民の方々と一緒に取り組むことは、とてもやりがいがあり、楽しいということです。小学生はとてもかわいく、活動に熱が入りました。また、市民の方々からのお褒めの言葉や激励の言葉をいただき、とてもうれしく、頑張ろうと思いました。

どの取組でも、たくさんの方が協力してくださったおかげで、たくさんの方が参加してくださったおかげでできたものばかりです。3月には、ここにいらっしゃる高田先生や嶽山先生、柴田先生が学校に来てくださって、出前授業をしてくださいました。明石公園は、とても価値があり、たくさんの人に支えられているということを知ることができました。

○糸美涼（明石高校理数探究類型生物班）

2年生の糸です。

私たちは、先輩方の研究を引き継ぎ、明石公園のドングリを研究することに決めました。しかし、ドングリの何をどのように研究すればよいのか分からず、1学期は、様々なアイデアを出し合い、実際に、フィールドワークを行って試行錯誤しました。

その過程において、柴田先生やみどりの相談所の山中先生は、力と知恵を貸してくださいました。山中先生は、学校に、今の時期では取りにくいドングリの実などを持ってきてくださって、出前授業をしてくださいました。

柴田先生、山中先生たちと話し合いをする中で、私は、知識量の多さに圧倒され、研究のやり方について理解を深めることができました。このように活動をサポートしてくださる人たちがいることは、明石公園の強みだと思います。できれば11月に、小学生を集めて、明石公園のドングリ博士になろうという企画をしたいと思っています。しかし、高校生の力だけではできません。引き続き、力を貸していただきたく思います。よろしくお願いします。

○岩崎善行（明石高校 理数探究類型生物班）

生徒たちの研究活動をサポートしてきた明石高校の岩崎です。まとめます。

第1に、高校生、市民、小学生が、一緒に明石公園で活動することは、とても楽しく、明石公園にとっても、参加者にとっても、とても意義深いことです。

第2に、こうした活動に参加したり、支援したりする多くの人に、明石公園は恵まれています。

第3に、しかし、これらの人たちは組織化されておらず、せっかくの力が発揮できていないと思います。

結論です。高校生が提案したようなボランティア組織ができると、こうした活動が格段にしやすくなり、明石公園の活性化につながると思います。高校生の呼びかけだけでは力不足でしたが、ここに集まっている皆さんに取り組んでいただいたら、きつとうまいくと確信します。話し合いの場である談議所と、ボランティア組織の2本柱で取り組んでいけばいいと思います。御検討下さい。

以上です。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございました。（拍手）

議論のほうは、また後で行いますので、続きまして、柴田さん、お願いいたします。

○柴田剛

柴田と申します。

私は、この明石公園から歩いて10分ぐらいのところに住んでいます。2日に1回ぐらいは、明石公園を、いろんな自然を見ながら散歩してるということです。それで、植物、昆虫、そういうものに、大変興味、写真を写したりしております。

それで、私の申し上げたいことは、多分、今日配付の資料にも提案としては書かせていただいておりますが、それになぜこういう提案をしたか、その元のところを少しだけお話をさせていただきます。

明石公園というのは、市街地に隣接しながら、素晴らしい自然が残っておるという場所です。その中には、絶滅危惧の植物なり昆虫、そういったものも幾つかまだ残っておるという状態です。

これらのものをうまく残していくためにどうすればいいのかという、このまま放っておくと、多分少しずつ消えていくんだろうとか思っておるんですが、そのためには、まず1つは、樹木の伐採に対して細かな配慮が要るんだろうと、これはもう全く伐採が駄目というわけではないんです。これを伐採する、こういうものを伐採する、こういうものは伐採しない、そういった細かな配慮が要るんだろうということ。

それから、あと、草刈りの問題ですが、これも、昨年、明石高校の生徒さんたちも一緒に取り組ませていただいたんですが、草刈りの時期とか、それから、あるいは、刈り取る草の種類、こういったものを、うまくコントロールしてやる必要があると。

それからもう一つが、希少種なり、そういったものの積極的な保護だとか、増殖、そういったものにも今後は取り組んでいく必要があるんじゃないか、そういう思いから、今回、提案をさせていただいたというものです。

こういったことを、公園の管理者だけでやってくださいというのは、これ多分無理な話なんです。それで、そういったことについての知識を持っていたり、あるいは関心を非常に持っておられるそういった方々で、ボランティアのような組織をつくるのか、ボランティアのようなもので取り組んでいくことが、一番いい方法なんではないかと思っておるわけです。

それともう一つ、とても、自然との触れ合いという面から見しても、この公園は、多くの方が自然を楽しんでおられます。例えば、ポケット図鑑のようなものを持って、公園の中の雑草を調べながら歩いておられる老齢の御婦人とか、そういった方も、お会いして、お話

ししたり、あるいは昆虫の写真、あるいは植物の写真を一生懸命撮っておられる方、あるいは、阪神間とか大阪から、わざわざ昆虫採集に明石公園まで来られてるような大人の方、そういう方々といろいろお話しするんですけども、そうすると、いや、この木は切らずに残してほしいんだとか、そういう話も、よくお聞きするんですよね。ここのところが、もう少し入りやすいように道をつけてほしいなとか、そんなお話もお聞きしたりするんですよ。

それから、あるいは、この花、何なんだろうと、名札があると分かりやすいのにねと言われたことがあるんですよ。これは、こういう花なんですよと言うて申し上げても、名札があったらいいのにねと言う。そういったことを、じゃ、これ、全部公園管理者の方にやってくださいというわけにもいかないだろうと。だから、それも含めて、ボランティアとして取り組んでいければいいかなということで提案をいたしました。

それで、例えば、ほかのところではどうやってるかという、例えば、都市公園じゃないんですけど、三木山森林公園、あるいはやしろの森公園、こういったところは、多くのサポーターグループというのを持っていて、そういった方々を中心に活動を行っていると。だから、これも、あるいは公園側が募集してやられてますけども、そういった、最初はそういうことでいいのかもしれないですけども、あと、そういった人たちが、自主的な活動として取り組んでいけるようなことが一番いいのかなという気がしております。

それで、最後の提案ですが、そういった樹木伐採、草刈りなどについての、みんなで考えを共有できるような協議の場が1つは必要なんだろうということ、それから、ボランティア活動をするにしても、そういった受入れ窓口、担当部署、調整会議の設置、それとボランティア活動に対する支援、そういったことをやっていただければいいかなと思っております。

以上です。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございました。(拍手)

それでは、引き続きまして、シニアおもちゃ箱の小山博様、お願いいたします。

○小山博（シニアおもちゃ箱）

ありがとうございます。

機会があって、こういうおしゃべりをするようになりました。シニアおもちゃ箱の小山と申します。

シニアおもちゃ箱というのは、明石市の支援センターのほうで、ちょっといろんな幼児を対象にしたパフォーマンスを見せながらやっております。その中に、お母さんと話しする機会があるんですけども、明石公園には行きたいけど、このくそ暑いのに、全然日陰がないな、探すのも大変だ。幼児については、非常に、まだ安全な場所ではないというふうに聞いております。

それで、私も、朝から、ちょっといろんな面で、明石公園を散歩しながらですね、早朝な

んですけども、非常にさわやかな時間に散歩してる関係で、朝はめったに通らないときしか分かりませんけれども、いろんな面で、対応できたらなということで、先ほどもおっしゃってましたように、ボランティアの窓口を、明石市で何で設けてないんやろうなという感じはいたします。県だけの話に持っていても、そんなの知らんでという話もされます。

たまたま掃除したときに、ごみが出ます。明石市は、月曜日と木曜日が回収日、なるべくその時期に、朝、早朝のごみを、自宅のごみ捨て、回収の場所へ捨ててるんですけども、ふだん、ようけたまってるときがあって、行ったときには捨てる場所がないんですよね。わざわざ持って行って、帰って、家で置いといてという形はするんですけども。たまたま我々は、73歳の平均年齢で、子育ての子守というとは何ですけど、昔、遊んだ遊びを子供たちに伝承してる機会を設けております。月1回なんですけど、それなりに対応してるお母さんもいらっしゃいますし、ようやくリピーターも出まして、あ、次、何をやってくれるんやろうな、シニアおもちゃ箱さんという形で、楽しみながら、私自身も楽しくやっております関係で、そのときに明石公園の話が幾分か出ます。

一遍、外で遊ぼうやないかという話もしてるんですけども、なかなかそういう機会に恵まれてませんし、明石市自体も涼しい時期だったら、それなりに外へ出て遊ぼうかなという判断をするんですけども、それもできない状況にあります。このくそ暑い中では、お母さん方に、出て遊ぼうということは言えませんが、これからは、やはり明石市が整備されていったら、外でも遊びに行ったらパフォーマンスを見せたいなという感じもしております。

それなりのことができるはずだと思うんですけども、何で県と市が仲が悪いのかなというつも無然に思っております。

それなりに、1回、僕、玉津の県の職員の方に言ったんですよ。ほんなら、関係ないでっ頭から言われたことがあるんですよ。そんなことを言わんといてと言うんですけど、ただ、アルバイトのおばちゃんは、親切にしてくれる。ここに小山さん置いといたらええでとか言ってくれはります。それは非常にありがたい日もありました。なんでそういう形の中で、さっきも言ったように、ボランティアの窓口を明石市にも設置していただいて、明石公園を、これ以上よくしていきたいと思います。

私も、明石に来て48年目になります。ここへ来た子供のときは、明石幼稚園の年少だったんです。そのときは、樹木がすごいんで、うちの家内は花が好きで、固有種も、いろんなものが好きです。今でも、明石のみどりの窓口のおちゃん、所長さんと、いろんな話をします。これがなくなったね、あれはなくなったねと、ぶつぶつぼやきながら言ってます。

そういうことのないように、やはり、1つの窓口をボランティアとしてやっていただくような形を取っていただければ、個人としても、明石市民としても、対応はできるんじゃないかというふうに思っておりますので、ぜひとも、そういうことをやっていただきたいと思います。

それから、遊具とか、いろんなものをこしらえるのも結構ですけども、里山であってほしいなという環境になってほしいというか、早朝、私も、4時半頃に、ちょっと出ることが

あるんですけど、そのとき、たまたまタヌキを見たんですよ。うわ、明石市も、こういう公園があるんやということを思っておりますので、やはり我々が入りやすい明石公園にしていただければ、この機会にとって、私も参考になりますし、お母さんたち、若いお母さんたちにも育てたい環境になると思いますので、ぜひともそういう推奨をしていただいて、ボランティアの窓口、里山になる明石公園にしていただければと思います。

以上、御清聴ありがとうございました。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございました。（拍手）

それでは最後になります。柿原様、お願いいたします。

○柿原辰郎

柿原です。

正真正銘たった1人で、去年からずっとそうなんです、何かのグループを代表してとか、そういう立場ではございません。さっきおっしゃってた、公園から10分の家に住んではった、私、公園から3、4分のところにおると。それから、明石へ来て48年とおっしゃってた、私、明石に家を買ってから53年目です。半分ぐらい東京にいたんであれなんですけど、家を買ったのは53年前なんですね。

私が思いますのは、草刈りということを書いてありますが、これ、地域住民も関係業者も、もちろんお役所も、公園を、安全で、きれいで、原則自由利用。パブリックスペース公園というのは、原則自由利用だと思います。もちろん常識とか、公序良俗は踏まえた上での話ですけれども、そのために、象徴的に草刈りを真面目にやろうと去年も申し上げました。今もそう思っております。

それから、明石高校の方々が、先生の御指導もあるんでしょうが、草刈りに着目して、ある種、ちょっとしたアクティビティーをしたということは、初めの一步で大変いいと思っております。市民の参加はなかったと言いましたが、私、手伝いました、一緒に草刈りました。

そこで思うのは、公園当局が、常日頃、どんな草刈りをしてるのかと、幸か不幸か、いろいろ話題になったんで、おとしの暮れから去年1年間、そして今、3年目の8月ですが、ほとんど2日に一遍ぐらい、明石公園の西区の奥から明石駅まで、しょっちゅうパトロールしてます、観察してます、ごみも拾ってます。

そこでずっと思うのは、1日、2日のことで申し上げるのではないんです。草刈り業務という公園管理の一番基本がどないなっとなのやと。つまり、ちょっと分かりやすくオーバーに言うと不真面目です、管理関係者たちは。今稼働している草刈りチームは何チームあるんですか、今年度。言えますか、すぐ。言えないでしょう。去年1年間は、ぎゃっと問題になったせいもあって、これは人情としてよく分かるんですが、草刈りは非常に手をこまねいてました。自然ですから、1年手を抜くと、あの石垣がああいう風景になるんですよ。

僅か数年前、築城400年、明石市制100年で、石垣がきれいに見えるようにしようという、うそか本当か、そういうスローガンで、知事と当時の市長がやったこと、石垣がきれいになったことは事実ですよ。ライトアップをしたことも、ちょっと問題はありますが、まあいいでしょう。じゃ、去年1年間、市民からぎゃつと言われたから何で手を抜いたんか、1年手を抜いたらあのさまですよ、自然が相手はそんなものです。

それから、本丸区域の北側、あれ、何とか、ちょっと池がありますよね。何か知らんけど、桜堀か。あそこへ、本丸側から下りるところ、実態として通行禁止になってます。何でやねんと。草はぼうぼう、ジャングルになってますわ。何か理由はあるのかとみんな思ってますよ。

そういうように、あなた方のなさってることはちぐはぐなことが結構多い、客観的に見るとね。

やっぱり草刈りチームをつくって、応援隊をつくって、それが3人1組で10組つくったら、毎週誰かがやると。じゃ、そのためには、公園協会側は、機材をちゃんとそろえてもらわないかん。機材まで持ってこいと言うのは、それは駄目です、用意してくれなきゃ。そんなようなことを含めて提案したい。

もう一つは、先ほどからいろんな方々から出てますが、ハードウェア、ソフトウェアがありました。もう一つ、それぞれいろんな言い方をしましたが、人間ネットワークですね。これをやっぱりちゃんとつくって、コントロールして、コントロールというか、マネジメントしていかないかん。そしたら、お金なんかそんなかかりません。福祉のことも、子供のことも、年寄りのこともね。

だから、その辺を、今、小学生でも、手の中にスマホを持ってるわけですから、スマホでつながることもできるんですよ。

市民病院とかがんセンターとかが近くにありますが、もう余命1か月と言われてる方が明石公園へ来て、ぼうっと景色を見てる風景も、何回も僕は見てるんですが、だから。

○嶽山洋志副部長

柿原さん、そろそろまとめていただけると。

○柿原辰郎

はい、どうも。その人間ネットワークね、これはできます。金なんか大していません。というようなことを申し上げたい。

最後に、前回欠席したので、ちょっとおこがましいんですが、活性化ってタイトルは誰がつくったのか、何を考えてんのかと。公園というのは、静かで自由利用できることが必要なんです。活性化なんて要らんことはあまり考えるなど、これは言いたい。

以上です。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございました。（拍手）

それでは、今から10分までですね。14時10分まで、20分間ですけども、議論のほうをさせていただければと思います。

御意見、御質問、どこからでも結構ですのでお願いできればと思いますが、いかがですか。

内容としては、組織づくりとかボランティア育成、その受皿となる窓口、どのようにつくっていくのかというふうな辺りが共通していたテーマかなというふうにも思ったりもしましたけれども。現状、ボランティアは、結構いろんな方々が、明石公園で、いろんな活動がされてらっしゃるんだけど、その方々が、どのようなところで、どういった団体の方々が、どこで何をしてるのかみたいなのは、まだ、お互いよく分かっていないみたいなのはあつたりとかするので、今、活動してる方々のネットワークをつくっていくだけでも、すごい価値のあるものにもなりますし、明石高校さんが持ってらっしゃるような支援グループみたいなものも、すぐ今もできていくのかなというふうにも思ったりするんですけども、何かその辺りは、すぐ取り組める話だったりするのかなというふうにも思ったりしていて。

はい、高田先生、いかがですか。

○高田知紀部長

よろしいでしょうか。

○嶽山洋志副部長

はい、お願いします。

○高田知紀部長

ちょっと明石高校の生徒さんと岩崎先生にお聞きしたいんですけど、応援隊ですね。応援隊を結成して、あまり集まりがよくなかったというお話だったんですけども、例えば、どういうところとつながりたいとか、どういう人とつながりたいとか、あるいは、そのために、こういう仕組みとか、あるいは、こういう機能がどこかに1個あればもうちょっと違ったんじゃないのかなというのを、想像でも構わないので、そういったことをもうちょっと詳しく教えていただきたいと思うんですが、いかがでしょう。

○岩崎善行（明石高校 理数探究類型生物班）

失礼します。

応援隊をつくろうという呼びかけには反応はなかったんですけど、さっき生徒が言ったのは、草刈りとか、たくさんの市民の方に参加していただきましたので、ちょっとそこは先ほど誤解があったように思います。

私たちのイメージとしては、いろんなことに、例えば、草刈りをやるよとか、掃除をやる

よとか、鳥に興味があるよ、虫に興味があるよって、いろんな興味関心を持った人がボランティア登録のような形をしていただいて、例えば今度、高校生がこんなイベントをすることをそこに呼びかけたら、興味ある人が参加していただける、簡単なネットワークだと思うんですね。

1つ例として、私が訪問した宝塚の西谷の森公園というの、私の友達がボランティアをやってまして訪問したんですけど、そのクラブハウスみたいなスペースがあって、ボランティアという木札がだ一っと名前がかかっているんですよ。その人たちが毎週金曜日、自然観察をやったり、畑をその人たちが作っていて、そこで取れた芋を、市民と一緒に焼き芋をしたり、それから、希少な昆虫を温室みたいなところで育てていたりというような、公園の管理業務ですよ、本来。そういうものを、実際、ボランティアが、ちゃんと担っているという事例を見ました。

明石公園は、確かに、それぞれの興味関心に応じて、観察会とかされているんですけども、ちょっと私たちが言ってるボランティアというのは、そういうものとは別に、いわゆる管理業務ですよ。草刈りとか、銘板つけとか、そういうような勝手にできないものですね、市民が。観察会なんかは、自由にしたらいいわけですけども、そういう管理業務も含めて、もっと市民参加ができるんじゃないかと。そういうことを呼びかけたときに、ああ、掃除ならやるよ、草刈りならやるよというような応答ができるような組織をつくっていただけたらいいんじゃないか。

そして、私の希望ですけど、草刈りをやった後は、みんなでビールを楽しく飲もうと、そんなことができたらいいなというのが私たちの思いです。ビールは関係ありませんけども、子供たちは関係ないですけど、草刈りの後、アイスクリームだけで十分喜んでましたから、何かそういう楽しいことが一緒にできたらいいなんじゃないかと、そういうイメージでいます。

○高田知紀部会長

分かりました。ありがとうございます。

とても重要なポイントだと思ってて、公園管理者は、自分たちの業務と責任感で、自分たちでやらないといけないと思ってるんですけど、そこをもっと市民とか高校生にも開いたらできることを、公園管理の業務でも一緒にできることがあるんじゃないかということなので、そういう公園管理業務を開いてみんなでやっていく。その先に、公園をきれいにするという楽しさと、汗をかいた後に、また違った楽しみがあるというような幾つかの楽しみが、何というか、実現できるような仕組みという点では、私はすごく大事なポイントなのかなと思うので、今日、県とか公園協会の皆さんも聞いてくれると思うので、そういったことを積極的に提案していただきたいと思うのと。

あと、ちょっと聞いて思ったのが、活動してる人たちも、私たちは、明石公園の議論してるので、どこにどんな人がいるかというのは何となく、この1年で分かってきましたけど、

高校生は、ぱっと、虫とかドングリのことを勉強したいと言ったら、どこにドングリのこと
に詳しい人がいて、どんなことが分かってるのかって分からないよね。

○黒木佳乃、糸美涼（明石高校理数探究類型生物班）

（うなずく。）

○高田知紀部会長

なので、何かこう、植物だけじゃなくて、明石公園の人、人間図鑑みたいなのもあったら、
ドングリに詳しい人、あ、こんな人がいるんやって、見て、その人に聞きに行こうってで
きるかもしれないので、そういうのも1つ、つながっていくときに大事な仕組みかもしれ
ないですね。そんなのがあったら、高校生お二人はどうですか、活用できそうですか、自
分たちの勉強で。

○黒木佳乃（明石高校理数探究類型生物班）

そうですね。私たちも、いろいろ、この1年、研究したり、いろんな方からお話し聞いた
りしたんですけど、全部、私、先生から御依頼したり、向こうの方から来てくださったりす
ることが多くて、私たち自身から御依頼することはあまりなかったもので、もっと自分たちか
ら主体的に行くためにも、そういうものがあると、より活用できるかなと思います。

○高田知紀部会長

はい。

○嶽山洋志副部会長

ありがとうございます。

○高田知紀部会長

ありがとうございます。

○嶽山洋志副部会長

今、高田先生がおっしゃった人間図鑑、もうこれ、すぐ、ぜひ作っていただきたいとい
うふうな思いで聞いておりました。

ほかいかが、お願いします。

○飯塚由美子委員

いろいろ実情を聞かせていただいてありがとうございました。

最初と2番目のグループの方のお話は、やっぱりハード面に関わってくると思うんです

けど、今回の皆様のお話って、どちらかというソフト面のほうかなと思ひまして、これって、変な話、建物を建てるより、何か組織ができればというか、組織っておかしいかな、何かできれば、本当にすぐできることではないかなと思ひまして。

じゃ、そこに、何がネックになってるのかなって思ったとき、よく私も、いろんな意味で、提案していくときに、ぶつかる話もあるんですが、やっぱりすいません、私、辛口トークで申し訳ないです。もしかしたら、県の管轄下であり、しかし、場所が明石であるというところの課題もあるのかなとか、あるいは、いろんなボランティアグループがあるところをまとめていくというような、そこを主体的にやるというところの、何か先ほどプラットフォームと言われて、それがハードではなく、ソフト面のプラットフォームというところでは、そういうものがつくりづらいようなところがあるのかなとか。これ、よくある話なんですけれど、また、本当に、すごく心ある方たちがこうやっていらっしゃる中で、少しその辺りの問題、課題をちょっと解決していけば、とってもいいことだから形づくられていくんじゃないかなというところでは、何か残念というか、いいんじゃないかって。ここに今日、委員として、丸谷市長がいらっしゃっておられるんで、そういう意味では、県と市というところで、ある意味の協力体制がまたできていけば、非常にこの活動もよくなるのかな。まして、若い方たちが頑張っておられるのに、大人が応援しないのは、やっぱりおかしいと思うので、非常に応援したいなと思っております。

以上です。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございました。

公園のその管理の一応業務の中には、パークコーディネーターとしての、いろんな人をつなげるみたいなのは、結構社会的には、かなり一般化してきてるところはあったりしますので、何かそういう仕組みを、公園の管理の部分でしっかり持たせるという話は1つあるかなというふうに思いますのと、あと、施設の話とかは、結構いろんなのが出てきたと思うんですけども、何か機材を貸してくれるだとか、議論する場を借りるとか、そういったハード面でのサポートみたいなことも、一方で、これから議論していかないといけないところかなというふうに思ったりしておりました。

松本さん。

○松本誠 ※ヒアリング参加者

明石高校の皆さんにちょっとお伺いしたい、質問したいんですけども、物すごい僕は、環境教育や環境学習ということと、それからフィールドワークという形で、いろいろな、先ほど柴田さんがおっしゃったような、草刈りの手伝いをするとか、名札をつけるとかというようなそういうふうなことというのは、僕は、非常に重なる部分が多いと思うんですよね。

だから、学習だとか教育ということとそのフィールドワークを別々じゃなくて、そこへ学

習や教育がフィールドワークにつながっていく、そういうふうな流れをつくる、考えたときにですね、残念ながら、明石は、東部が明石高校しかないですけど、しかし、中学校はいっぱいあるわけですね、この東部でも。そして、小学校となると、もっとたくさんある。そういう学校に、そういうような気風が広がっていくというふうなことが非常に大事だと思うんですけども、どのようにしたら小中学校も含めて、ほかの学校にもですね、明石高校での実践されたようなことが広がっていく、どんな条件とか、どんなキーワードが必要かというようなことを、もしお気づきのことがあれば、生徒さんと、それから先生のほうから、ちょっとお示しいただければと思っています。

○黒川佳乃（明石高校理数探究類型生物班）

今までやってきた活動とあって、小学生、中学生にも案内を出していたり、この話していた明石公園応援隊も、小学生、中学生に声をかけたり、活動に来てくださった親子とかにも話をしているんですけども、それでもやはり反応がなくて、応援隊というのに入ってくさる方が少ないのは、ちょっと問題点だなと思っています。

小学生、中学生って、夏休みとか、そういう長い休暇があるので、そのときにだけでも、草刈りとかだとやはり来にくいと思うんですけど、何かイベントごととか、このごみ袋1つが満パンになったら何か御褒美がもらえるみたいな、お菓子がもらえるとか、そういう、物でつると言ったら言い方は悪いんですけど、何か御褒美のようなものがあれば、みんな来てくれるかなとも思っています。

○嶽山洋志副部長

お願いします。

○柴田剛

すいません、ちょっとだけ私の意見も。

今、高校生の方がおっしゃったとおりなんですけども、実は私、今、加西市の網引湿原というところでボランティア活動もやっておるんです。宝塚の西谷の森と同じような、向こうも湿原があって、それでまた、加西の網引湿原も、湿原をどうやって保全しようかということで保全作業、要するに草刈りと、それから人が歩くところの木道整備、こういったことをやっておるんですけども。その中で、今、どんなことをやってるか、ちょっと地元の高校生の方が入っていただいている北条高校、あるいは小野高校、そういったところの高校生が、休みの日は、来ていただいたり、それから、それ以外に、あと地元の加西市の小学生、小学校の3年生は、もう全校生、環境学習として網引湿原を利用していただいている。

そのときの小学生たちを連れて歩いたり、いろいろお話ししたりするのを、私たちのようなボランティアが担わせていただいているというふうなことがあるんで、例えばですけど、そういった小学校の環境学習の場として積極的に使っていただくようなことができれば、結

構また、それから後、その子たちが大きくなったときに、またいろいろ取り組んでくれるのかなと。

中学生でというのは、なかなか参加しづらいみたいです。高校生になると、そういう部活なり、そういうことで参加していただくことも、可能なようには感じております。

以上です。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。

○岩崎善行（明石高校理数探究類型生物班）

環境学習ということでは、もう来られてる丸谷市長が市長になる前、ずっとされておりました。いろんなレベルで、そういう活動が行われてると思うんですね。

子供たちが呼びかけたその応援隊が、なぜ不発に終わったのかということ、実はこれ、ほかの高校にも呼びかけんかいなということをよく言われるんですけど、あのとき、その応援隊を結成しますという呼びかけ文を、市内全ての高校の生徒会宛てに配って、管理職のほうから、全部連絡をして、ぜひ来てくださいという呼びかけをしたんですが、これ、全く反応がなかったと。じゃ、キーワードは何かということ、やっぱり残念ですけど、明石高校の中の一研究班が呼びかけても動かないなど、それだけのことだと思うんですね。

誰が呼びかけるかというのは、とても大事なことで、ですから我々も、子供たちと一緒に、いろいろやってみましたけど、やっぱりちゃんとしたバックグラウンドがあって信頼される、誰もが信頼している人が呼びかけるということが、簡単な話ですけど、ポイントで、それがあれば、高校生なんかもうすごく参加しやすい、この子たちも参加しやすい。

実際、この秋、ドングリのことをやろうとしてる、思ってるんですけど、もうどうやって人を集めるかというところで本当に困ってるんですね。今までも、そうやって本当に苦労してやってきましたから、ぜひそういうことがしやすくなるような組織を、やっぱり、大人の責任でつくってほしいと思います。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。

多分、御発言したいと思うんですけども。

○丸谷聡子委員

いや、いや、もう。

○嶽山洋志副部長

ちょっと時間がかなり来ておりまして、すいません。

今の御発表の中で、ちょっとまとめのほうに入らせていただきたいと思いますと思うんですけども、もう本当に、明石高校さんは頑張ってらっしゃるなという印象をすごく持ちました。もう僕自身も、今後何かあれば言っていただいて、高田さんと僕と2人は、必ず行くというふうな形で、ね。

○高田知紀部会長

(うなづく。)

○嶽山洋志副部会長

いうことを、ここで約束したいなというふうに思います。

おっしゃるように、ゲーム感覚みたいなことも、すごく大事なポイントとして取り入れていったらいいなというふうに思いますし、今日参加の皆さんも、ぜひ参加してくださるんじゃないかなというふうに思いますので、これからもずっと継続して、ぜひ続けていただきたいなというふうに思ってます。

一番最初に御指摘にあったとおり、管理業務のところへの参加、これも、ちょっとまた、管理者の方と議論するような機会というのも、これ、談議所のほうでも深めていけたら、あり方検討会じゃ、なかなか難しいかもしれませんので、談議所のほうでぜひしていけるといかなというふうに思ってますので、引き続き、これも、継続の議論でお願いしたいなというふうに思います。

ということで、第3グループの発表となりました。皆さん、御協力ありがとうございました。これで、第3グループを終わらせていただきます。どうもありがとうございました。(拍手)

そしたら、5分休憩いたしまして、次、14時15分からスタートしたいと思います。

[休 憩]

◇第4グループ

○嶽山洋志副部会長

そしたら、第4グループですね。4題、御発表のほうをお願いしたいと思います。

まず、尾仲様、お願いいたします。

○尾仲正治

尾仲と申します。どうぞよろしくお願いします。

前回も、ヒアリングで言ったんですけども、明石公園駅前から入るとこは砂利道なんで、障害者、子育ての方、お年寄りの方が入れないんですね。それを繰り返し言わせていただきますけども、砂利道を、片一方でもよろしいですから、通行できるような形をしていただきたいなと思うことだけなんですけども。

この前も、ちょっと知り合いから聞いたんですけど、自転車に乗って倒れたという方もおられるんですよ。それも、いい悪いとかは、舗装したら、ある程度の自転車の方も走行が楽なったら、飛ばしてきはる人もおると思うんですけども、やっぱり誰でもが入れるような明石公園に、それはしていただきたいなと思います。

それと、子供さん連れもそうですし、高齢者、後ろから車椅子を押して、おばあちゃん、おじいちゃんがいつでも桜を見に行けるような公園であってほしいなと思います。

以上です。ありがとうございます。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。（拍手）

続きまして、Yoga Studio AYURの西川様、お願いいたします。

○西川和美（Yoga Studio AYUR）

皆様、こんにちは、明石駅近くでヨガスタジオを経営しております西川和美と申します。

このたびは、イベント案として、ヨガフェスといいますか、ヨガに限らず、何か健康に特化したイベントとして、ダンスとか、太極拳とかですけども、地域の皆様が、地域の住民の方が参加できる何かで明石公園を活性化できたらなと思い、今回、参加させてもらいました。

例えばですね、2015年より、インドのモディ首相という方の提案により、国際ヨガの日として、6月21日の夏至の日に、世界各地でヨガを楽しむ様々なイベントや催しが行われております。これは、国連で正式に認められているんですけども、例えばニューヨークでは、タイムズスクエア前の広場とかで、数千人規模の大きなヨガのイベントが開催されております。

何かそういうことを、この地元の明石で、私も、ヨガを伝える身として、ヨガのすばらしさを伝え、広めるために何かしたいなと思っておりまして、明石公園は駅も近くて、すごく広い広場もありまして、芝生とかもありますので、何かその1区画でできたらなと思っております。

そのときに、何か健康に関するもの、例えばオーガニックな食を提供するキッチンカーの方を呼んだりとか、そういうふうに、ヨガだけに限らず、健康に関するイベントというものをして、住民の皆様に、健康について、少し考える機会というものを提案できたらなと思っております。

ヨガという言葉の語源には、つながりという意味があります。心と体のつながりとか、調和とかのみならず、ほかの人々とかのつながり、自然とのつながりというものを大切にしております。この自然豊かな明石公園で、そういうことができればいいなと思います。

以上です。ありがとうございました。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございました。（拍手）

続きまして、和田様、お願いいたします。

○和田太郎

こんにちは。

私は、明石公園というのは、自然の博物館だと思ってます。といいますのは、この瀬戸内海ですね、兵庫県の南のほう、全部ですけれども、というのは、自然に、人間がですね、作用しないと、どういうのかな、植生というんですか、になるのか、といいますと、どなたも思うんですけども、照葉樹林ですね、そういう林になると思うんです。

結局、そういう照葉樹林を、この兵庫県の中で、子供さんに案内したいなと思ってですね、どこへ皆さんを御案内なさいますかね。本当の自然というのは、そういう人間が作用しないときにですね、どういう林になるのか、そういう林が一番の基盤、源になると思うんです。だから、そういう照葉樹の林を、どこへ御案内しますかね。

だから、私、県庁のほうにも聞いてみたんです。そしたら、どこを言ったと思います。太山寺、それから赤穂の生島というんですかね。だから結局、県庁のほうも、太山寺と言ったって、私も行ったことがあるんですけども、本当に、照葉樹の林になつとるのか、今、はっきり言って、照葉樹の林になつてゐるのかも分かりませんが、川とかですね、それから傾斜地とかあるんですよ。ただ、そういうところというのは、未熟土になっちゃうんですよ。だから、本当の照葉樹の林というのには、こういう平地のようなところで、十分時間がかかってできた林ですよ。だから、そういう林といたらどこがあるのかって言ったら、私は、兵庫県に勤めて、出先ばかり13か所、事務所を替わって、うろうろうろしてきました。

でも、本当に、どうしても照葉樹の林を子供に案内したいと思ったら、やっぱりこの明石公園しかないんです。ほかのところ、皆さん、神社とかどうこう言いますけれども、本当に子供さんが連れて入れるような林がある照葉樹の林というのは、この明石公園しかないと思います。私自体はそう思ってます。ですから、本当に本当の自然を教えたい、それがベースだと思うんです。

人間と自然との関わりを見ていく場合に、本当の自然というのは何がベースになつてゐるか。私は、山の関係の仕事でいましてですけども、今まで間違いだらけ、間違いだらけといったら悪いんですけどね。はっきり言って、針葉樹を育てるために広葉樹をどんどんどんどん切っていく、針葉樹の育成に重要なことで、どんどんどんどん変わってきました。

でも、僕なんか、一番最初に就職したときなんか、トチノキの2メートルぐらいの直径の木をですね、~~薪から~~巻き枯らし(R7. 10. 17修正)にしたんです。~~薪から~~巻き枯らし(R7. 10. 17修正)にしてゐるの、それが僕の最初の仕事です。その確認です。

そんなようなことばかりやってきたんです。まず、全部、山をどんどんどんどん切って

きました。でも結局、慰めですけれども、どんどんどん人間が山から遠ざかっていって、その山に土壌ができてきたんです。だから私は、山はようになってきてると思ってる。だから、そのようになってる土壌の、一番の本当の土壌を知ってもらうためには、やっぱりこの公園の照葉樹の森というのが、一番何か大切だと思ってるんです。

だから、そういう大切なものを残すというんですかね。もうそういう大切なものだということを、どんどんどんもっとアピールしていただきたいと思うんです。もうそういうことが、一番の意味のあることだと私は思います。

以上です。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございました。（拍手）

そしたら4番目になります。オンラインで、お庭屋さんほうきの法貴弥貴さん、お願いいたします。

○法貴弥貴（お庭屋さんほうき）

明石公園を大きな緑地として捉えてほしいなと思っています。

緑地として、4つの機能があると思っています。

1つ目は、人々が癒やされる場としての緑地。2つ目に、動物や鳥、昆虫が安心して過ごせる緑地。それから3つ目に、気候変動が大きくなっている都市部の減災の場としての緑地。それから4つ目に、漁場を豊かに育てる森としての緑地。この4つがあると思っています。

この4つを生かすための具体的な方法は、1つ目、植木への負担の少ない剪定と、根が深く伸びる土の改善。2つ目、剪定した枝や幹をごみにせず、公園内の土や植木の改善に利用する。それから3つ目、落ち葉もごみにせず、緑地を育てる堆肥やマルチングとして使う。それから4つ目、草刈りで出た草も、堆肥やマルチングとして使う。5つ目に、新しく植える木は、桜やモミジばかりの単一植生にはしない。

これらの5つの具体的な行動で起きてくることなんですけれども、植木の根が土の中に深く伸びます。根が深く伸びることで、災害にも倒れにくい植木になります。それから、根が深く伸びることで、ほかにもいいことがあって、降った雨を土の深くまで浸透させることができます。水の浸透させる機能が高い緑地に育つということは、今私たちが直面している、気候変動による記録的豪雨にも対応できる緑地にするということです。町の冠水であったり、川の氾濫というのを防ぐ緑地にしていきたいと思います。

それから、根が深く伸びるということは、ほかにも地下水脈につながるということになります。今ですね、今の方法だと、コンクリートで固める川とかお堀、池が、安全面では改善したのですが、生物多様性とか治水機能では、海を豊かにする水づくりというのが少し埋まってきました。そこでですね、地下水の15度から18度の一定温度の水を、大木が常に吸い上げてくれて蒸散することで、夏場は涼しく、冬場は暖かいという気候を調整して

くれる役割を担ってくれます。

それから地下水脈を動かすということが、ミネラル豊富な水を海までつなげていくということにもつながっていきます。

もう一つに公園から出るごみをゼロにするということ。これは公園を育てる資材に、今までごみで捨てていたものを資材にして、ごみ代、肥料代を削減していくということにもつながってきます。

それから、ごみを出さないということ、その費用を削減するということと、もう一つは、焼却炉から出るCO₂の削減ですね。それと、ごみを運ぶ運送用の運送時に出るCO₂の排出量の削減にもなっていくと思います。

落ち葉を公園で再利用することで、植物は、保温保湿のできた健康な育ち方をします。ほかにも小動物や昆虫の安心したすみかもつくることができます。また、落ち葉を土に戻していく、落ち葉がある公園に置くということで、落ち葉のところに降った雨の水は、今、雨が落ち葉を通していくことで、フルボ酸鉄というものを含んでいきます。それが、漁業の植物プランクトン、海草というのを育てるのに役立ちます。これは漁場を育てて、魚が多い明石の海にしていくということにもつながってきます。森が、海にとって大切だと言われるのは、このような理由があります。

最後に、市民税金をどう使うか、このごみを出してしまうだったり、CO₂を排出してしまう、新しい技術に使うというのももちろん大切なんですけれども、このお金を、この明石公園を、永続的に、命の循環で、何百年も先、この私たちが今アクションを起こすことで、次の世代、もっと次の世代にも豊かな森を残していくという仕組みがつくれたら、本当にいい使い方だなと思っています。

以上です。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございました。（拍手）

それでは、御意見、御質問のほうお願いしたいと思いますが、いかがでございますか。お願いします。

○丸谷聡子委員

4人の皆さん、ありがとうございました。

まず、後半のお二人の何か共通のキーワードって、土壌だったなというふうにちょっと思ったりします。法貴さんは、本当に深く、まさに森は海の恋人ということで、明石公園の土壌は、本当に明石の豊かな海につながっているんだよということで、すごく、そこを、明石公園1点だけを見るんじゃなくて、本当に、明石の生態系全体で見るという大きな視点をいただいたかなと思っています。

和田さんも、照葉樹林を残すことが大事だし、ここしかないという土壌をアピールすると

ということで、まさに明石公園の土壌って、人間1歩の、このスリッパの1歩の下に、1000匹ぐらいの土壌の中の虫が暮らしてると言われてるんですけど、まさにそういった場所なんだなということを改めて感じさせてもらいました。

西川さんも、本当に新しい発想で、何か森の中だからこそできるヨガみたいな、自分と自然との対話の中で、また自分の体にありがとうとか言えるような、そういう場に、すごく使えるなと思って、また、こういうことって、明石公園を好きになってもらう人が増えていく1つのきっかけになるなと思って聞かせていただきました。

やっぱり一番の課題は、尾仲さんが言うてくださった、本当に尾仲さんは、ずっと毎回、明石公園に行きたいけど、車椅子なので入り口からもう入れないんだとずっとおっしゃられて、まさにこれ、尾仲さんの問題だけじゃなくて、ベビーカーを押したお母さんであるとか、私もよく明石公園で何かイベントするときに、トランクにいっぱい荷物、本とかを入れていくんですけど、もうあそこの砂利のところ、トランクが前に進まなくなって止まってしまうんですけど、そういった意味でも、本当にインクルーシブなみんなの公園にするために、こういう発想って大事だなって思うんですけど、尾仲さんが、もうちょっとこうした、あったらいいのになというのは、入り口だけでいいんでしょうか、ほかにもあったら、教えていただけたらと思います。

○尾仲正治

僕、砂利道だけじゃなしに、お城の近くまで上れるような状態でしていただきたいなと思う。やっぱり、上から見る風景と下から拝む風景が、全然全く違うてくるんでね。そういうのを、やっぱり障害者の方、子供、子育ての方に、みんな見てもらってのこそ公園だと思うんで、その辺は、ちゃんとしていただきたいなと思います。

以上です。

○嶽山洋志副部長

はい、そうですね。まさに、そのアクセス性というものをどう高めていくかというふうなところがすごく課題で、非常にこの辺は、やっぱりハードの部分が出てくるかなと思いますので、積極的に働きかけていく、何か仮設でしてるようなものもあったりするんでしょうか。

○尾仲正治

ありますね、はい。

○嶽山洋志副部長

最近、海岸で、砂浜を行けるような、車椅子で行けるような、そういうシートもあったりするのかなと思うんで。

○丸谷聡子委員

唯一、上に上がろうと思ったら、文博側から、ちょっと坂をぐわっと上がっていかないといけないんですけど、エレベーターで上がってもらって、そこから横移動すると、上に上がることはできるので、ここ、明石公園のいいとこって、ほかのお城とか公園と違って、一定インクルーシブとも言えるような、何か上に上がろうと思ったら、方法さえ考えれば、上に上がれたりとか、あと、トイレはやっぱり充実していて、私も、環境学習とかでずっと、もう十数年使わせてもらってますけど、トイレは本当に、車椅子の方のトイレもありますし、そういう意味では、ほかの公園に比べたら使いやすいなとは思ってるんですけど、まだまだそういう意味では、車椅子の方とか、ベビーカーのお母さんたちには課題があるんだなということ、今日、教えていただけたなと思っています。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。

アプローチの多様性を、ちょっとしっかりと高めていけるように、努力したいというふうに思います。

ほか、いかがでございますか。

○高田知紀部長

すいません、よろしいでしょうか。

○嶽山洋志副部長

はい、お願いします。

○高田知紀部長

高田です。ヨガのフェスの話、私、すごく関心があるというか、ちょっと西川さんに、変な質問かもしれないんですけど、私、公園とか、緑地の管理の問題と人間の健康の問題を関連づけて考えるというのは、すごく大事なんじゃないかなと最近は思っていて、何かこう、ヨガ的な方法を、例えば、先ほどのグループで話があったように、草刈りの作業の中に何か取り入れることによってですね、例えば草を刈ったり、木を切ったり、そういう公園の管理作業をすることを通じてより健康な体をつくるみたいな、その環境管理に関わることによって、その人の体が健康になるみたいな仕組みができると、すごく一石二鳥だし、楽しく、しかも、健康志向の人も、環境がきれいになったら、それはそれでまた気持ちがいいので、すごくいいんじゃないかなと思って。私、あんまり運動しないので、月に1回、竹を切ったり、木を切りに行ったり意識的にしてるんですけど、何かそういう、先ほどのグループであった公園の管理とヨガみたいなのを、うまく組み合わせたりできないのかなというのをちょっとお聞きしたいなと。

すいません、変な質問なんですけど。

○嶽山洋志副部長

いかがですか。

○西川和美 (Yoga Studio AYUR)

そうですね。何か、はい、そういうことができれば、楽しいかなとは思います。

やはりヨガって、ただ単に動いて気持ちいいだけではなくて、本当につながりというのをすごく大切にしております、何かと、健康食品だったり、そういうふうに、ボランティアじゃないですけど、草刈りとかだったり、そういうつながりというものを広げていってしていけたら、私も楽しいかなと思います。

○高田知紀部長

だから、何かこう、明石公園でいろんなことをやってる活動と健康というのは、恐らく、もう全てつながると思うので、そういう視点で今までの活動を見てみると、また違った価値が、今までのやってる活動は一緒なんだけど、違った価値が見えてきて、参加者も、さらに幅が広がっていったりするのかなとも思うので、また、その辺り、ちょっといろいろと明石公園の活動で知恵をお借りしたいと思います。

よろしくお願いします

○西川和美 (Yoga Studio AYUR)

よろしくお願いいたします。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。

ほか、いかがでございますか。

お願いします。

○小林禧樹委員

和田さんの明石公園の書類、非常にすばらしいもんだと思います。そのことで、ちょっと私どもも、少し以前にですね、タブノキという、もうこれ、照葉樹のまさに代表的な樹木の1つですけど、今まで、タブノキというのが、九州とか南のほうに行ったら、結構まだ残ってるんですね。これ、瀬戸内とか朝霧、明石公園についても、それほど知られてなくて。

今から20年ほど前に、明石公園の植物という本が、県のほうが出してるわけです。そのときも、いろんな植物の樹木を中心にして調査をしたんですけどね。そのときも、タブノキも何本かは調べているんですけど、どういふのかな、そういう、その中の本当の明石公園のよ

さというところまで、なかなかうまくつかみ切れてないような形で報告が終わってるんです。

そういうこともあったんで、我々のほうで、タブノキについて大分調べて、20本近いタブノキが、幼木なんかを含めたら、まだもつとある、恐らく数十本あると思うんですけど。ただ、そのタブノキ林というふうな形で残ってるという状態では、もう既になくなっていくんですけどね。

ただ、皆さん御存じのように、剛の池の北のほうのちょっとした森の中にあるタブノキは、立派なタブノキで、周囲のあれが60センチか70センチ以上あって、そういうところも何本か残っています。だから恐らく、かつては相当なタブノキが明石公園の中に残ってて、そういうものが森をつくっていたということがあるのと。

それから、イチイガシが、こども広場の一角に、もう7本か8本残ってるんですけど、そのイチイガシというのも、照葉樹じゃないんですけども、落葉樹ですけども、それが県内で非常に少なく、明石公園に、なぜそれが残ったのかというのがいろいろ議論されていまして、植えたものではないかというふうなことを言う人がいるわけですけど。私も、最初は、ちょっと植えたものではないとは思ってたんですけども、なかなかそういうものを証明するということは難しくずっといたんですけどね。いろいろ調べてたら、ここからは5キロぐらい離れた垂水の縄文遺跡が見つかって、その中に、イチイガシのいろんな遺跡が出てきて、その縄文時代に、垂水の辺りから、こちらの明石にかけての瀬戸内海一帯に、そういうイチイガシの林があったということがだんだん分かってきて、それを見てですね、そういう報告を見て、あ、これは、明石公園にも、かつては、縄文時代には、イチイガシの林が広がっていたと、恐らくそういうふうな確信を持ちまして、ですから、今、明石公園のは、今、しょぼしょぼした形になってますけども、恐らく、そういう縄文時代のイチイガシの林の生き残りというふうに、私、今は考えてましてね。

そういうふうに考えてみると、明石公園というのが、お城の400年とか500年とかそういうふうな年数の次元ではなくて、もう何千年、何万年と、それこそ、そういう時代からの照葉樹林をずっと引き継いできてる、そういうものを公園の中に残してるという。だから、非常にそういうふうな見方をしたら、より明石公園の価値というのが、そういうものに全部引き継いだ形で、明石公園というのは、今、こういうお城というものができた時代ですね。明石公園の前身がつくられたわけですけども。それのはるか昔の時代から、そういう森が、明石公園の場所にあったという、そういうことをやっぱりしっかりと押さえた上で、明石公園の自然を考えてみたら、その値打ちというのも大分違ってくるだろうと、私は、そういうふうに考えて、まだまだちょっともう少しいろいろ調べてみて、明石公園の自然というものをよりはっきりとしたいなと思って。

だから、最近、明石公園の植物史というそういうものを、50ページほどの報告書ですけども、この6月ぐらいに出しました。それは、また、だんだんだんだんいろんな形で皆さんにもお見せしたいというか、どこかに、皆さんに見えるような形でそれが出せたらいいなと思

って、まずは、また、そういう機会を、ぜひ持っていただきたいと思います。
以上です。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。
和田さん、大丈夫、よろしいですか。

○和田太郎

何せ、私自体も、結局どういったら、山の仕事をして、本当に山って、自然というのは、人間との絡みの中で、どれが正しいんだというのが、どういうふうにすればいいんだとか、そういうようなことが、本当に謙虚に、人間が当たっていかないと、とても太刀打ちできるものじゃないということを身にしみて思ってます。

だから、本当に、どういうのか、何が一番の基本なんだというところを、これからの子供さんたちに知ってもらおうということが、一番の大切な自然を知ることじゃないかなという事は、私は身にしみて思ってます。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。

野鳥の会の方が、先ほど、緑地の変容を、77年前からの図を出されてたかなというふうに思うんですけども、この図を見ても、かなり明石公園が緑地的に残ってきた、非常に貴重な緑であるということは、うかがえるかなというふうに思います。

仮説であったとしても、そのような変容というものを議論していることを、どんどん出していけると、よりいいなというふうなことを思いますので、小林さんの御意見とか、和田さんのお話とかというのは、もっと、どういう形になるのがいいのか分かりませんが、より発信していけると、それは、生態的、植物学的な価値を発信する、そのより解釈を分かりやすくしていくというのは、非常に大事なこともかもしれませんけども、そういう議論をしているということが、明石公園の緑地の価値というものを学術的にもフォローしていくものになっているのかなと、非常に大事な視点かなというふうに思って聞いておりました。

ありがとうございます。

ほか、いかがでございますか。はい。

○飯塚由美子委員

すいません、よくしゃべるなと思われそうですが。尾仲さんですかね。

○尾仲正治

はい。

○飯塚由美子委員

車椅子ユーザーとしての御意見を頂戴したんですが、実は、少数派というか、少数の障害のある車椅子ユーザーの方の御意見として捉えられてしまいがちですけども、先ほど市長が言われたように、ベビーカーを押してるとか、あるいは、その事故、年を取ってくると、何かこんなものを前に、何かがあるものを押していくとか、あとですね、もしかしたら、白内障、緑内障になって、目が見えなくなるという事例もたくさん知っております。ということは、私たちが何を思うかという、インクルーシブ、ユニバーサルというところは、そういう方たちのためではなく、全ての人が生きやすくなるためには、そのところに視点を持って、ハード面、ソフト面のものを構築していくというところの思考が一番大事だと思いますので、今日、車椅子ユーザーの方の発言として捉えずに、全市民が幸せになるためには、そのところの部分、形、構築していくことが、全ての人が幸せになるという視点のところを、ぜひぜひ私は、ちょっとその辺は、発言したいなと思っています。

以上です。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。

自分自身もそうになっていくんだということを自覚しようということで、ありがとうございます。

ほか、いかがでございますか。

○丸谷聡子委員

すいません、1つだけ聞かせてもらっていいですか。

○嶽山洋志副部長

はい、お願いします。

○丸谷聡子委員

法貴さんにちょっと1つ教えていただきたいんですけど、公園管理から出る草とか、剪定した落ち葉の有効活用を提案して下さって、落ち葉とか草って、そこに置いてたらいいいように思うんですけど、剪定枝って、結構な量が出ると思うんですけど、具体的にどんなふうにするのがいいのか、もし何か法貴さんのほうでいいプランを持ってらっしゃったら、教えていただけたらと思います。

○法貴弥貴（お庭屋さんほうき）

はい。剪定枝とかを、ある程度、同じ太さのものを、同じ長さのものというのを集めて、

それを、土の中の改善のときに使う、資材として使えます。

今、雨の水が降っても、土の中に深く浸透していないという状況で、根っこが上がってきているので、土の中にしっかり水が浸透するような大きな穴を掘ってあげて、そこに有機物、抱き込む有機物を剪定した枝だったり、幹というのを使います。

それから、もう一つですね、新しく植栽する際に、どうしても土壌が硬いので、植えても、その水やりの管理をしっかりとしないと、次の植物が育たないということが今よく起きてるんですけれども、植栽のするときの周りを囲むマウンドにも、枝とかが、すごく有効に使えます。

以上です。

○嶽山洋志副部長

その枝の長さとか細かさみたいなのがあってあたりするんですか。

○法貴弥貴（お庭屋さんほうき）

そうですね、人が持てるサイズであれば大丈夫です。

○嶽山洋志副部長

なるほど。ありがとうございます。

○丸谷聡子委員

公園全体って、かなりの量が出るでしょう、やっぱり、ある程度、剪定していくと。

○法貴弥貴（お庭屋さんほうき）

はい。

○丸谷聡子委員

それが、全部使える感じですか。

○法貴弥貴（お庭屋さんほうき）

そうですね。全部使っていくということで、土に、ごみではなくて、それが、次の命の循環になるような使い方で、あれだけの緑地があるので、全部使えると思っています。

○丸谷聡子委員

ありがとうございます。

○嶽山洋志副部長

結構、今、前に伐採した樹木を、公園の北側に置いてたりとかしてまして、あそこは、朽木の虫探しとかをしますと、結構、面白い生き物がばんばん出てくるみたいな感じになったりするので、あれ、もう剪定枝を積んでるだけで、生き物がたくさんやってくる環境になるかなというふうにも思ったりしますね。

ありがとうございます。

そしたら時間が参りましたので、最後、まとめさせていただきたいと思いますが、4点ほどあったかなというふうに思います。

まず1つ目、ベビーカーなども、同じような問題になってきますけども、アクセス性の問題ということで、今かなり、ほかのところに比べると、アクセス性は非常にいい部分もあるかなとは思いますが、さらに、尾仲さんはじめ、いろんな障害をお持ちの方々に参加していただいて、もう一度、ちょっと検証するような機会とか、そういうのを持ってみてもいいのかなというふうに思ったりしました。

2つ目、ヨガの話、管理と健康というのにこれをつなげて考えていこうということで、いろんなつながりを生んでいくようなところが非常にあるんじゃないのかなというようなこととか、あと、僕自身も、結構草刈りをやったりしている中で、草抜きとか、草刈り、草抜きをしていると、没頭して、それに集中して、結構しんどいんですけども、集中できるような部分があたりとかしますので、何かそういったところも、非常に健康みたいなことにつながってくるのかなというふうに思って聞いていたりしました。

3つ目のところは、自然植生の照葉樹林の在り方とか土壌の在り方、これ、明石公園らしさみたいなところの1つの売りでもあったりしますので、かなり学術的な部分というのは出てくるわけなんですけども、その部分をしっかりと、研究、モニタリング等でフォローしていく、仮説であっても、どんどん発信していくというようなことが非常に重要だろうというふうな、そんな議論があったかなと思います。

剪定枝、これ、土壌の環境改善、それから動物の生息環境づくり、そういったところで、積極的に使っていこうという循環型の公園管理ですね。そういったものを、明石公園も積極的に取り組んでいこうということで、今、既に、結構、明石公園さんもされてる部分はあるのかなとは思いますが、それももっとアピールしていくような、何かこっそりやるようなところがあったりしますんで、もっとアピールしていただけると、連携していけると、よりいいのかなというふうに思ったりもしました。

ということで、第4グループも、多岐にわたるテーマでございましたけれども、そんなことで、非常に多くの御提案をいただきました。どうもありがとうございました。（拍手）

そしたら、5分休憩をいただきまして、最後、15時からですね。最後のグループの御発表に移らせていただきたいと思います。

法貴さん、どうもありがとうございました。

[休 憩]

◇第5グループ

○嶽山洋志副部会長

そしたら15時になりましたので、最後のグループになります。4題、御発表いただければというふうに思います。

先ほどこっちとお話ししましたが、5分ずつ御発表いただきまして、その後、20分間の総合ディスカッションという流れになりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それではお一人目です。一般社団法人のはらくらぶの環境学習リーダーでいらっしゃいます一宮様、よろしくお願いいたします。

○一宮小葉（一般社団法人のはらくらぶ）

一般社団法人のはらくらぶで環境学習リーダーとして活動している一宮です。

のはらくらぶは、2004年に設立した団体で、19年にわたって、身近な自然と人の輪づくりを目的に、主に、保育園、幼稚園、小学校での環境体験学習のコーディネート、サポートをしています。

そのフィールドとして、明石公園は、交通の便もよく、植物、野鳥、昆虫など、いろんな切り口で、多様な環境学習ができる貴重な場として活用させていただいています。

私は現在大学3年生ですが、小学校3年生のときに、兵庫県が実施している環境体験授業の学習で、明石公園の樹木を観察したのが明石公園との自然との出会いでした。

私が通う小学校は、明石の中でも緑の少ない地域でしたが、その校庭の中にある小さな森の樹木と明石公園の大きな森の樹木を比較して観察することで、木は木だけで生きるのでなくて、いろんな生き物がつながっていて、私たち人間も、その循環の中にいることを学びました。

そのとき、明石公園で体験をしたおかげで、身近な自然の不思議や美しさに感動して、生きる力も育んでもらいました。日々生活していたら、どうしても心がしんどくなってしまうこともあるんですけれども、そういったとき、私は、身近な木々の緑とか、野鳥とか、そして、青い空を眺めます。そうすると、何か言葉には表せないけれど、腹の底から大きなパワーが湧いてきます。それが、私が、自然から教えてもらった生きる力だと思っています。そして、そういう身近な要素から気持ちをリセットできるという力は、生きていく上で、とっても大切なことだとも思っています。だからこそ、大学生になった今、小学生に、身近な自然のすばらしさを体験させてあげて、様々な学びや力を得てほしいとの思いで活動しています。

明石公園では、樹木、野草、ドングリや木の実、落ち葉などの自然の落とし物などを使って、障害のある子供もない子供も同じように、いろんな自然に触れ合う遊びとか、五感を使う体験を行ってきました。こういった活動ができる公園は、ほかにはなかなかありません。

例えば、明石公園で実施した環境体験では、トンボやセミやドングリの赤ちゃんの観察や、ドングリの落ち葉をきざぎざにちぎってみたり、カタバミという葉っぱとクローバーの違

いを見つけて、カタバミで10円を磨いたりなど、たくさんの自然遊びをしました。

小学生はもちろん、中学生のトライアルでこういった活動をしたところ、初めは、何か、中学生なんで、あんまり興味ないみたいな様子の子もいるんですけど、こう時間をかけていくと、いろんな発見を楽しんで、じっくり観察するようになったりというのがすごい印象的でした。

また、ついこの間も、親子対象で、夕方から、夜の明石公園で、森の観察会をしたんですけれども、セミの羽化が、あちこちに見られました。幼虫が歩いてるとか、背中が割れてる、羽が伸びてきたねとか、驚きの声がたくさん上がって、セミにとって羽化は、危険が伴う一番大事なときだと伝えたと、じっくりと優しく見守る姿が印象的でした。

ふだん何気なく歩いてても見つけられない小さな虫とか野鳥たちですけど、五感を使ってゆっくりじっくり観察することで、多くの発見をすることができます。そして、自然界での生き物の営みは、私たちに大切な刺激を与えてくれるはずです。そんな自然を五感で感じる体験は、障害のあるなしにかかわらず、まさにインクルーシブな展開ができると実感しています。

そして何より、私の人生に大きく影響したこのすばらしい明石公園の自然を、次世代につなぐ取組が必要だと思います。そのために、私からの提案としては、ぜひとも公園内に自然観察センターを設置し、専門職員を配置し、適切に自然を管理しながら、子供たちが、身近な自然を感じられる取組をお願いしたいと思います。

のはらくらぶが今まで明石公園で環境学習をした学校は十数校もあり、このほとんどが、10年以上にわたって、毎年、明石公園をフィールドの学習を継続しています。これからの明石公園の利活用として、こうして、明石市のみならず、阪神間の多くの子供たちの自然体験、環境学習の場として、これからも継続して使えるよう、ソフト、ハードともに充実させていただきたいと思います。

最後にもう一度申し上げますが、明石駅前にありながら、貴重な自然が残っており、多くの生き物が暮らしているというこの価値を、今一度見直していただきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございました。（拍手）

それでは続きまして、黒木様、お願いいたします。

○黒木晴信

はい、よろしくお願いいたします。

私は、明石市内の小学校で教員をしております黒木晴信と申します。本日、この会に参加したいがために、有給を消化して来ております。よろしくお願いいたします。

明石公園は、学校の授業の様々な場面で活用されてきました。社会科の授業では、明石市

について学ぶ単位があります。その授業では、明石公園はどこにあるのか、どのように移り変わってきたのか、何をするとところかなどを取り上げて、子供たちと話し合います。

話合いの中では、昆虫採集や植物の観察といった、自然の中で遊ぶ声が多くありました。ほかにも、総合的な学習の時間では、子供たちが自然について学ぶ環境学習というものがあります。幾つかの学校では、その授業で、明石公園の木を1年間観察したり、昆虫を捕まえに行ったり、野鳥や生き物を観察しております。さらに、生活科や理科といった科目では、自然の中で遊ぶ単位や、昆虫や植物について学ぶ単位があります。これらの授業でも、明石公園を活用することがあります。

私の学校でも、秋に行く校外学習で、明石公園に行く予定です。

こんなにもたくさんの学校が、明石公園を活用している理由としては、駅前にあり、豊かな自然が広がっていることや、トイレが整備されていること、障害のあるなしにかかわらず、体験ができるといった貴重な場所だからです。このような貴重な場所であるからこそ、今後は、樹木の伐採はせず、SDGsの理念の下、子供たちの生きる力を育み、多くの生き物や自然が豊かな明石公園を守っていただきたいと思っております。

さらに、兵庫県の教育理念の中には、「生命を尊び、自然を大切にする」といった1文もあります。明石公園は変えていくのではなく、このままの豊かな明石公園であってほしいと思っております。

また、私は、生まれたときから明石に住んでおり、子供のときから、明石公園でよく遊ぶことがありました。様々な生き物がおり、緑が豊かで、こんなに落ち着く場所は、明石市では、明石公園しかありません。

家の周りの田んぼはどんどんなくなっていき、道も整備されてコンクリートだらけ、たくさんの自然が淘汰されていき、子供たちが身近に自然を感じるものがなくなってきています。それでも、昔から、ほとんど変わることなく続いてきた明石公園は、子供たちにとっても、私たち大人にとっても、自然を感じられて、明石市内で唯一と言っていいほどの豊かな場所です。そんな明石公園も、ここ数年で、多くの木が伐採されており、本当に悲しくて仕方がないと同時に、残念な気持ちになりました。

何度も言いますが、私の大好きな明石公園のままであってほしいので、このまま明石公園を、どうかどうか守っていただきたい、そういう思いで私はここに来ました。

ぜひともこの会で考え直していただき、今の明石公園をどうか維持して守ってほしいです。

ありがとうございました。（拍手）

○嶽山洋志副部長

ありがとうございました。

それでは、兵庫県自転車競技連盟の徳丸様、佐々木様、お願いいたします。

○徳丸佳克、佐々木邦彦（兵庫県自転車競技連盟）

どうもこんにちは。自転車連盟の徳丸と言います。会長石井秀武、理事長藤本清孝という形で、自転車連盟を運営しております。

皆さん、知ってますでしょうか。この明石公園の中に、自転車競技場があることを。今回、理事長から聞いてる部分で、連絡させていただきます。

県立明石公園自転車競技場は、現在、競技場としての複合施設である。自転車競技場を将来どうするか、また、今現在、ちょっと付け加えますが、所有者がどこになってるかは決まっていなくて、あの自転車競技場というものは。公園協会であるか、県であるか、中は県であって、走路は公園協会、後で説明させていただきますが、そういう状態の中で、自転車競技場というのを運営されております。

ほんで、この分に関して、今日、審問という形で問いただしていくという形でお答えをお願いしたいということで、連絡を受けております。

現状のままでは、劣化、施設が改修するに当たっても、誰がするのか分からない状態で、できれば、今回、このような席で、県がここを管理する形をお願いしたいと、兵庫県の県有施設として位置づけをお願いしたいということが、私どもの会長の意見であります。

明石競輪場というのが昔ありました。今の自転車競技場になります。昭和25年にできました。昭和31年に、国体をここで開催しました。昭和36年には、県がギャンブルという意味で、廃止方向で、なくなりました。その後において、昭和36年から昭和52、3年まで、無法の状態で、自転車競技場は置かれておりました。

資料によりますと、県が予算を組んで、その当時、自転車競技場を新しく走路をし直したという形で載っております。しかし、そのお金は、県は窓口にはなりましたが、自転車に携わった人間が、1億2000万円のお金をつけました。

1977年、僕は、まだ自転車も乗ってない時代ですが、その後、競輪選手として携わりまして、その後においても、僕も、その場所において、お金を支払った形で維持管理をしてきました。

その後において、県に関してなんですけど、本当に県に対して失礼な言い回しになってしまうか分かりませんが、その自転車競技場を管理するに当たって、維持するのに当たって、県は、正直、金を払ってくれてなくて、その人たちだけで運営して今に至る。

2006年に兵庫国体がありました。2回目の国体になります。そのときによって、初めて、県がお金を出して、走路に改修費用を出していただきました。そのときにおいて、大体走路に関して、やっぱり億という金がどうしても必要になってきます。1回目の昭和52年のときに1億2000万円から1億4000万円、それは、自転車団体だけで補ったんです。

今回のこのあり方ってやっていただいて、私がこういう席に出させていただいて、皆さんが知ってもらって、ギャンブルは悪いと言うんか、言うんやったら、何で兵庫県は、駄目やったというところの西宮競輪場が残り、甲子園競輪も。すいませんけども、こういう状態の中で、明石の自転車競技場は運営しております。

できれば、県が、今後においては携わって行って、中心になっていただいて、維持管理、国体選手も輩出しております。その辺を考えてもらって、この施設を改修、そういう点においてはお願いしたいと思っております。

すいません、時間をオーバーしました。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。（拍手）

それでは最後になります。魚の棚東商店街振興組合の安原様、お願いいたします。

○安原宏樹（魚の棚東商店街振興組合）

皆さんこんにちは。すいません、ちょっとさっきまで明石焼きを焼いてまして、汗びちゃで申し訳ないです。ちょっと遅れてきまして申し訳ないです。

すいません、僕、魚の棚東商店街振興組合の理事長を21年してます。商店街の中の活性化とかですね、それから、明石まちなかバルというて、皆さんは御存じか分からないですけども、明石の飲食店の集まりのイベントとか、そういうのも携わらせていただきました。

その中で、明石公園では、時のウイークというて、「時のまち」の明石を発信していこうということで、もう何年も、ずっと時のウイークというお祭りをやってるんですけども、その上部団体の明石・時感動推進会議の議長のほうも携わらせていただいています。

その僕から見てですね、明石公園さんとそれから町なか、こんなに駅に近くにこんな素晴らしい公園があるのに、もっとやっぱり距離を近めてですね、いろんな部分でにぎわいを一緒に創出できないのかなというふうには思っています。

今日、こういう機会を与えていただいて、できれば、僕は町なかで、いろんなことで、お祭りですとか、それからイベントとか、いろいろ関わってますんで、明石公園のほうでも、年間行事として、いろんなイベントをされてます。特に、お城より南側といったら、今すごく、週末ごとぐらいですか、いろんなイベントが入ってるんですけども、それプラス、お城もきれいに見えますし、お堀もありますし、そこを通って、明石公園のほうの何かイベントと、それから町なかのほうの魚の棚、それから、魚の棚だけじゃなくて、周りには、魅力的な商店街もたくさんあるんですね。その商店街とか、それから、海までが結構一体となって、いろんなことができるんじゃないのかなというふうには思いました。

なので、これから、我々としても、いろんな事業はやってるんですけども、個別の商店街が個別の事業だけをやるのではなくて、やるときに、情報共有とかしてですね、明石公園にいらっしゃる方々に、町なかでやってることが分かるよとか、それから、町なかにいらっしゃる方々に、明石公園で、今日、こんな事業がやってるよというようなことが分かるような、まず情報発信から始めて、そこからいろんなつながりを持って事業ができればいいかなと思います。

まちづくりというのは、ずっとしつこく、長い間、時間をかけてやっていかないとけな

いことなんですけれども、その祭り、明石公園であるお祭りとかイベントというのは、その一過性のまちづくりの1個の、言うたら、何て言ったらいいですかね、ずっとやっていかないといけないまちづくりをするための1つのマイルストーンみたいな形で祭りづくりがあって、そこで、いろんな団体の方、それから商業者にかかわらず、いろんな頑張ってる地域の方々とつながって、イベントや祭りをするのが、結果、商業者だけのイベントとかじゃなく、いろんな方々とつながったイベントになっていくのかなと。そういう部分を、僕らだけができることじゃなくて、いろんな知恵を、皆さんからいただきながらやれたらいいかなと思います。

以上です。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございました。（拍手）

それでは、総合ディスカッションの時間に入りたいと思いますけども、御意見、御質問がございましたら、挙手をお願いいたします。

お願いします。

○丸谷聡子委員

いいですか。

○嶽山洋志副部長

お願いします。

○丸谷聡子委員

皆さん、ないですかね。なければ。

○嶽山洋志副部長

皆さん、ないですか。もう誰でも御発言していただいて結構なんですけども。

○丸谷聡子委員

ないようなので、じゃ、皆さん、考えておいて、その間に。

今、大学生が、しっかり思いを発言してくれて、本当に、私たち大人は忘れてはならないのは、明石公園の自然が、こんなすばらしい若者を育てたということですよね。それをいまだ一度、皆さんで今日、共有していただけたらありがたいなと思って、本当に私は感動しました。本当にありがとうございます。

先ほどから、午前のときに、村上先生ですかね、明石公園は明石公園だけで完結するだけじゃなくて、まさに、先ほど安原さんが言ってくださったような、明石の前、駅前であると

か、商店街であるとか、そういったところと本当につながりながら、お互い情報発信していくことが大事だよと言って、まさに、この若者2人が、もう自然のことを言ってくれたんですけど、明石公園の自然環境も、明石公園の中で情報が完結するんじゃないくて、若い人たちなんで、いろんな方法で発信する案って持ってるんじゃないかなと思うので、もしそういうものがあったら、若い人の感覚で、ちょっと提案してもらえたらなと思うんですけど。急に言ってごめんなさい。何かあったらお願いします。

○嶽山洋志副部長

どうでしょうか。お願いします。

○一宮小葉（一般社団法人のはらくらぶ）

明石公園の自然って、見に行かないと、今どういう生き物がいてとか分からないと思うんですけど、それを、ちょっと写真とか動画に撮ったやつを、何かQRコードで読み取れるようにして、どこかに掲示するとか、それこそ駅とか魚の棚とかでできるんだったら、デジタルサイネージみたいな感じで、もう歩いてる人、来る人が見れるようにするとか、そういうのがいいかなと思うんですけど。そういうのを発信するためにも、やっぱり、明石公園に、常にそういうその環境について知ってる職員の人が出て、そういう情報を常に発信できる状況というのをつくる必要があるなと思いました。

○黒木晴信

私、教員してるんですけど、やっぱり小学生とかにも、学校の中で、こういったイベントをやっていると、魚の棚もそうなんですけど、今度、魚の棚も行かせていただくんですけど、何かいろんなことを、情報共有、学校の中とか。そうしたら、保護者の方にも伝わりますし、一応チラシとかも結構配ってるんですけど、やっぱり常に分かるような何か仕組みがあれば、今、タブレットとかもありますので、学校で皆が使える、それぞれ個人持ちでタブレットを使ってますので、そこから何か、QRコードとかで、毎日見てもいいよみたいなので、ここから情報がすぐ分かるよみたいなのがあってもいいのかなと思いました。

以上です。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。

もうかなりデジタルな部分なんですね。そして、動画というふうなところで、皆さん、頑張ってお覚えていただいて、できる人が職員の中にもいらっしゃったら、その方にお渡しして発信していただくとか、大学生の中でも、ちょっとその辺のことができる人が、もしいらっしゃれば、ぜひ引き込んでいただいて、明石公園の情報を、どんどん広く発信していただけるとうれしかなというふうに思います。

お願いします。

○村上裕道委員

どうもありがとうございます。今日、安原さんがですね、私と、どうも同じことを思っていて、物すごくうれしいなと聞いておりました。ありがとうございます。

その安原さんのお気持ちをもう少し発展させていこうというときに、私がちょっと考えてたのは、明石公園市民ウイークみたいな感じで、市民が好き放題に使うような、そういうのを、1年に1回ぐらい考えていくようなときがあれば、実際に、みんなで使ってみて、支障がある部分とか、これとこれとつなげればうまいこといけるという具体的なイメージがどんどん醸成されていくんで。1週間が無理でも、そしたら1日だけでもいいから、市民が、今の県立公園を好きなように使えるような日というのを、時間というのをつくってみたらどうなんだろうというふうなことをイメージしておったということでございます。

そのときに、一番大事なのは、公園の側に、あれしてくれ、これしてくれと言ってしまえば何が足りないかというのが全然見えてこないんで、とにかく自分たちで全部やってみたときに、足りない部分がみんな見えてくるはずなので、そういうのを、実験的にやるというのがいいのかなというようにことを思って。規模をでかくするとしんどいけど、ちっちゃな規模でやれば、そういうのは、シミュレーションは何ぼでもできるんで、そういうのが、一遍やってみる価値があるかなというふうに感じました。

管理上の問題がいろいろありますので、その辺、こういうところで話ししながら、打開策を見つけられればいいかなと思っております。

それとあと一点、自転車のほうの話なんですけど、これ、具体的にですね、今、競輪の練習する方々は、延べ、年間、どのぐらいの方がいらっしゃるのでしょうか。

○徳丸佳克（兵庫県自転車競技連盟）

座ってていいですか、このままで。

延べに対してなんですけど、ふだん、月曜日から金曜日まで、午前中2時間、練習時間を取らせてもらってます。その時間帯において、選手なんですけど、1年間通してなんですけども、毎日のように人が来ているもので、延べ人数でと言われても、少しちょっと何人という、大体10人から20人近くというのが、午前中、来てる形になります。

土曜日、日曜日に関しては、私どもの団体になります自転車連盟という形で、今回であれば、国体の練習会をやっております。

去年なんかは、ジュニア自転車教室という形で、日曜日において、第10回まで、明石市さんの協力の下、助成金をもらって、ジュニア自転車教室、小学校3年生から、大体15名前後になりますが、その方に参加してもらって、小さいうちから自転車に慣れてもらうという形を取らせてもらってます。

それともう一つは、春と秋、ここ最近は、予算的な部分がなかなか取れないという形で、

ふれあいサイクリングという形を取らせてもらって、障害者の方々と自転車に乗る、タンデムで乗る、いろんな変わり種の自転車に乗るという形で、あとは、ビンゴをやったりとか、そういう形のひとときの時間帯を、自転車競技場を使って、今現在、やってるというところになります。

○村上裕道委員

私らが子供のとき、兵庫工業に行った友達なんかは、自転車部で、クラブに入ってやって、あそこで練習してるのは見てたんですけど、今もそういう状態、状況ということなんですか。

○徳丸佳克（兵庫県自転車競技連盟）

僕が現役のときは、現役選手のときは、県高になりますね。

学校の先生が、ずっと来れるわけでもないですので、僕が、自転車部を面倒を見た形で、競技場を管理してて、生徒だけでは難しいもので、先生から委託を受けた形で、今だったら、委託を受けるということに関しては、いろんな制限が発生しますが、その当時は、そこまでこだわりもなく、僕も、40年間、ここの競技場を利用させていただきました。

だから、その中で移り変わっていくというのは重々よく分かってて、県のほうにも陳情する。バンクというのは傷みます。アスファルトが傷むと同じです。道路が傷むのと同じです。道路が傷んだら、アスファルトを敷き直しますよね。バンクも同じように、敷き直さなければ、後々の使用が。ここ最近では、一番ひどい割れ方としては、2センチほど間が、タイヤが入ってしまうんです。

やっぱり危険な状態という形で、県のほうにも、僕らは、先ほど言いました、公園協会を通じて県になるんですよ。何か変な団体ですけども、あの中で、何で公園協会と県が複雑に混ざってるかというのを知ってもらいたいのは、もともとあそこは競輪場でしたけども、競輪をするに当たっては、施行者って、今、市、県、町という形でできます。だけど、そのでできる状態の中でできるものが、何でJKA、その当時は、日本自転車振興会と言いますが、そこから助成金をもらうのはおかしいじゃないかと。で、苦肉の策として、兵庫県は、その当時、県じゃないよ、市じゃないよ、明石公園、公園協会ですよという流れの中で、今まで、3億というお金を、JKA、その当時から、日本自転車振興会という形で、助成をしてもらっております。

いつまでも、いつまでも、そういうわけにもいかない。板挟みになってるのがそこで使用してる人間なんですけども、県もそろそろ管理に当たっては、県がやりますよという形を取ってもらわなければ、僕たちは、今、中は県で、あれ、サッカーやってるんですよ、ソフトボールで使ってたんですよ。で、外側は、公園協会なんですよ。この数年ほど前は、同じ団体の中で、走路に関しては使用料を取るんです。中に関しては無償です。そんなことないでしょうというのは、使ったら分かるんですけども、もうそろそろ、そんな変な使い方をせずして、県が管理するということをお願いしたいと思います。

それと。

○嶽山洋志副部長

徳丸さん、ちょっと時間も限られておりますので、状況はよく分かりました。その特殊性といえますか、かなり県の在り方、協会がどう絡んでるのかとかという話というのは、個別に議論していくような機会を、この後でも設けて、話をできればと思います。

○徳丸佳克（兵庫県自転車競技連盟）

すいません、そしたら次回によりしくお願いいたします。

○嶽山洋志副部長

その複合利用というものに関しては、恐らく、時代の流れ的には、もうちょっといろんな形で、いろんな団体に関わられる形のほうが、僕個人的にはいいんじゃないかなというふうには思ったりするんですけども、それは何か。

○徳丸佳克（兵庫県自転車競技連盟）

何か言うていただいたら。

○嶽山洋志副部長

また後ででしょうか。

○徳丸佳克（兵庫県自転車競技連盟）

また後で。

○嶽山洋志副部長

分かりました。ほか、いかがでございますか。
お願いします。

○河本裕之委員

高校野球連盟の河本と申します。

魚の棚商店街さんには、すごいお世話になっておりまして、あの大きなビジョンを置かせていただいて、球場でやってるイベントごと宣伝していただいて、野球大会を盛り上げにすごい貢献していただいて、ありがとうございます。

ただ、その逆のことというのはできてなくて、例えば、今月24日から夏の全国大会がありまして、全国から、お客さん、保護者が中心ですけれども、明石球場に来られます。全国から来られるイベントというのは、明石市内では、ほかにあまりないのではないかと、これ、

毎年全国から来られる。来られて、本丸には上がられますわ。あと、雑談されてるのを聞くと、この後、U S J に行って帰ろうか、ちょっと待ってよという。どうも話をいろいろ聞いと、お土産を買うのにステーション、あるいは、2号線ぐらいまでは行かれるけど、その後、銀座とか魚の棚の辺の回遊ってなかなかないようで、その辺りを何か工夫することができれば、もっと、せっかく全国からたくさんいらっしゃるのに、明石のPRを、全国の方に知っていただく大きなチャンスだと思うんですが、何かこちらにも協力できるようなことがあれば、アイデアがあればお願いします。

○安原宏樹（魚の棚東商店街振興組合）

はい。高校野球さんで、でも、ちょっと商用のことって難しいというところもきつとあると思うんですけども、例えば、うちの店のホームページ、うち、あかし多幸っていう明石焼屋なんですけども、ホームページの、店長が、明石で、この後、うろうろしてほしい場所みたいなので、周辺マップみたいなのを載せててですね、そのスポットの中に、明石公園も入ってるんですよ、天文科学館も入ってますし。

同じような形で、それぞれ明石公園さんにいらっしゃる方、それから駐車場はどこに止めようとかいう方々が見るホームページとかに、やっぱりその地域の周辺の名所とか、明石に来たからには、ここも1回のぞいとかうみみたいなことがそれぞれで分かるような形にしていただけると、あ、ここに来たら、こういうところも近くにあんねやというところで、発信って、もっとつながっていくと思うんですよね。

またそれが、みんなそれぞれ、明石公園さんは明石公園さんのホームページというような感じで完結してるところがあるんで、それぞれがそれぞれ、近くにこんな面白い魅力的なのがあるよというふうにしていただくと、ちょっと魚の棚も宣伝しないといけないんですけども、そういう感じかなと思いますけれども。

○河本裕之委員

例えば、高野連でお店の宣伝をするわけにはいかないんですが、魚の棚の店舗マップみたいなのを作っていただいて、そこにびらっと、知らん顔で貼る分なら、何かそんなうまいことすれば、ちょっとまた相談させてください。

○安原宏樹（魚の棚東商店街振興組合）

全然大丈夫です、相談に乗りますんで。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。

先ほどお話にありました、明石公園で、時のウィーク、お祭りをされてはったということでもありますけども、今後、明石公園で、こういうイベントとか、こういう機会ができればいい

いなみたいなことがあれば、御意見いただければと思います。

○安原宏樹（魚の棚東商店街振興組合）

そうですね。やっぱり夏場、結構暑い公園ですんで、なかなかイベントをやっても、熱中症とか、怖い部分もあったりするので、これから納涼フェスが8月の末ぐらいに、夜店のお祭りがあって、そこでは、J Cさんとかが、今回、明石音頭とかをまた再確認しようというようなことを試みでされたりというところもすごいなと思うんですけども、秋、冬、今、ロハスパークやロハスミーツさんもいろいろされてますし、いろんなところが入って、あと、まちなかガーデンショーですか、そういうようなイベントもあったりしますし、まちなかガーデンショーなんかで県のイベントとしてされてるときとかに、この前、ちょっと、伊藤理事長のほうに話させていただいたんですけども、普通にそこにお店が並ぶだけではなくて、緑のそういうイベントですから、地場のお野菜とか、それから果物とか、何かそういうような関連づけしたような商品とかも、そこで売ってるよみたいな形にするとかですね、魚の棚とバッティングし合うと、魚の棚のほうに怒っちゃうんですけども、そういうふうな、ちょっとうまいことすみ分けしたようなもので、お互いがお互いでみたいなことができて面白いのかなとは思います。

それから、せっかく秋になったら、秋の月がきれいなときに、お城、それからお月さんなんかを見に行きかみたいなのというようなイベントとか、何か事業みたいな、涼みながら、僕らちっちゃい頃って、明石公園って晩に入ったらあかんというか、怖いでというようなイメージがあったんですけど、晩にちょっと涼みながらうろうろしようかみたいなことが、安心してできるようになってきたらいいのかなと思うんですけども。

以上です。

○嶽山洋志副部長

お願いします。

○辰巳太一委員

自転車の競輪場、私の祖父は競輪選手でして、明石のバンクで走っておったそうで。明石公園は、いろんな大きな施設があって、老朽化であったりとかいろいろ問題があると思うんですけど、これから誰がしっかりと管理して、しっかりといいものをつくっていくのか、また、修繕してブラッシュアップしていくというか、そういうものを、施設を、どんどんどんどん整えるのと、結構この他の意見書を見たら、自然のことを多く書かれてるんですけど、やっぱり施設をしっかりと利用してもらって、人がどんどんどんどん循環していく、商店街にどんどんまた人が流れていく。本当に、町全体をつなぐような、本当の公園になっていくのがベストなんじゃないかなというふうに、この意見書を見て思いました。

以上です。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。

○徳丸佳克（兵庫県自転車競技連盟）

よろしいですか。

○嶽山洋志副部長

はい。

○徳丸佳克（兵庫県自転車競技連盟）

ありがとうございます。施設に関してなんですけど、本当にそのとおりです。

今、県の方々にまず言いたいことというのは、あの施設を、今の状態では、大きな大会は引っ張ってくることはできません。

兵庫県で国体がありました。雨が降ったり、そんなときに、施設等に関しては、一切自転車点検をするところさえ雨に濡れてしまうようなところで国体をやったわけです。正直言うて、全国、どこに行っても、そんな施設はありません。兵庫県は、そのような形での開催をただけです。恥ずかしい話です。

自転車は、1台、大体10万円から100万円ぐらいします。その管理に関しても、コンテナを借りて、公園の中にコンテナを置いて、そこに自転車を百何台、200台近く置いてる状態で、ガードマンを雇って、その1週間国体をする。できれば今回、そういうのも聞いてもらって、今後、施設の改修であるとかそういう方面においては、そういうのも、考えていただいてやっていただきたいと。

今回、僕が思うに当たってなんですけど、この1年、2年というのは、大事な時期で、もし兵庫県が、あそこの自転車競技場を改修して、大きな全国大会をできるってなれば、毎年、実業団大会というのを引っ張ってこれますし、今、それをやらなければ、ほかの自転車競技場のほうが、だんだんだんだんそういう方面で、人を呼ぶという方向になりつつあります。

だけど、先ほど皆さんが言ってましたように、ここ明石に関しては、環境が整っております。町の近いところで競技場があって、駅からも近く、宿泊施設も、大体やっぱりその大会に来たら、1週間ほど泊まっていく形になります。だけど、今の状態で皆さんに来てくださいと言っても、ホテルはまだ行けたとしても、施設が、自転車を管理するところが、自転車、人が見るところが、で、走路がという、思えば僕は、今、兵庫県で役員をやらしていただいてやっておりますが、そういうのも考えていただけたらと思っておりますので、よろしくお願いします。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。

すいません、あと1分で終了ということでございまして、大変申し訳ありませんけども、まとめに入らせていただきたいと思います。

このグループで、最初のお二人に関しましては、学習、自然体験というふうなところが1つキーワードとしてあったかというふうに思います。明石公園の自然をどのようにして広げていくのかというふうなところで、動画等を含めたデジタル環境をどう整えていくか、その辺の手法とか広がりみたいなのところで、さらにまた、参加いただけると非常にうれしいなというふうな御議論でございました。

それから商店街との連携、これは、先ほど来からずっと出てきている南北間のつながりづくりとか、明石市とのまちづくりの連携というふうなところとの話とつながってくるかなと思うんですけども、いろいろ団体さんのホームページ等で、周辺の名所も伝えるとか、あるいは、秋冬のイベントで、魚の棚筋のところとはかぶらないような自然を売るような商店の出店とかというふうなことを考えていけるのではないかというふうな、具体の提案なんかもいただけたかなというふうに思っています。

最後、施設に関しましては、これはリノベーションということで、順次、遊具等もずっと議論してあったところだと思いますけれども、兵庫県中心になって、管理者というか、管理者は協会さんでありますけども、そこの環境のあり方に関しては、兵庫県のほうで議論されてるかなと思いますので、そこをまた引き続きで、あり方検討会でも議論できたらなというふうに思っているところです。

ということで、以上5グループ、19団体、19名の方々の御発表ということになりました。大変長時間ではありましたが、非常に有意義な、そして具体的な御提案をいただいたかなというふうに思っております。

最後、部会長の高田先生に、ここで、最後、まとめは高田先生がしていただけるということで、非常に安心して、私、進められてるところがあったりするんですけども、大変恐縮ではありますけれども、すいません、最後、バトンをお渡ししたいというふうに思いますが、よろしいでしょうか。

○高田知紀部会長

じゃ、最後の、はい、いつもの恒例の今日の振り返りだけをちょっと私のほうでさせていただきます。いつもと同じ……

○嶽山洋志副部会長

高田先生、すいません、ごめんなさい。まだ御発言されてない方が委員の中でいらっしゃると思いますので、その話をまず伺ってもよろしいでしょうか。

○高田知紀部会長

はい。

○嶽山洋志副部長

すいません。

○高田知紀部長

はい。お願いします。

○上町あずさ委員

今日は、皆様の御発表ありがとうございました。特に最後の今のグループで、一宮さん、自然を見ることでリセットできる、本当にそれで生きる力を育んでもらったという、本当に大事なことだと私も本当に共感いたしました。そういうふうな体験を、これから子供のうちに体験してもらってというのは、将来役立つことだと思いますので、最初のほうに、ひきこもりとかの話もありましたけれども、そういった、ちょっとそういうつらいときに、そういうふうな力をもらえる手段を身につけるといえるのは、本当に大事なことで、それで、明石公園が、そんな力を持ってるということで、本当に感銘を受けました。

あと、いろんな意見をいただいたんですけども、やはりいろんな市民の方々のグループが、いろんなボランティアでその活動をされているので、もうそれを本当にうまく組み合わせることで、新しく建物を造ったりしなくても、充実した活性化、本当に活性化という話題でしたけれども、活性化ができるんじゃないかというふうに感じております。

一宮さんも、自然観察センターをつくって専門職員を配置してほしいというふうにおっしゃったんですけども、なかなか全てが分かる専門職員って難しいですね。すごいいろんな分野の専門職員を取りそろえないといけなくて、それはそれで、すごく費用がかかることなんですけれども、最初のほうにあったボランティアセンターみたいなのをつくって、そこで、いろんな人が、それぞれの専門家が集まって対応できるようにするですとかということで、対応できるかなというふうにも思いましたし。

あと、ソフトの充実ですね。私、今、大学でいるんですけども、大学も、学生募集で、オープンキャンパスをしないといけないんですけど、最近、オープンキャンパスも、オープンキャンパスアプリというのがあって、アプリをダウンロードすると、キャンパスが広いので、どこのキャンパスに行ったら何をやってるとかというのが、今、グーグルの位置情報と連携できるので、もうそれで、自分がどこにいるかが分かったり、近くに行ったら、ここから、何時からイベントが始まるよみたいなのが情報で出たりするので、それにかかる費用とか、メンテナンスとか、そういうのもいろいろあるとは思いますが。例えばですけど、この明石の北から南の商店街のほうも、お城も全部含めて、何かそのアプリみたいなのを作って、情報も分かるし、情報の提供もできるしとか、あと、博物館機能、ミュージアムみたいなお話もあったと思うんですけど、もっと詳しく知りたかったら、そのミュージアム的な

情報も、そのアプリから得られるとか、何かそんなこともできるかなって、それはすごく勝手な妄想ですけど、そんなふうにも思いました。

今日はありがとうございました。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございました。

兼光委員。

○兼光たか子委員

はい、ありがとうございました。

私、今、身につけてるのが、ドングリで作った、ドングリ笛に目玉をつけて、ちょっとアクセサリーっぽくしてるんですけど、こんなことも、ドングリでできると思うんですね。のはらくらぶさんもやってましたし、これができなくなったのは、コロナですね。コロナに入って、やっぱりこれに口をつけるというと、ぱっとはやって人にうつしてしまうということがあったんで、それができなくなると、このドングリ笛もできるようになると思うんです。

それと、魚の棚さんとの協力で、明石公園の歴史って、町並みの歴史、それから魚の棚さんで食事をして、海まで、魚を見るという、そんな本当にすてきなイベントができたらいいなと思っておりました。

ありがとうございました。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございました。

中務さん、お願いします。

○中務裕文委員

失礼します。委員させていただいてる中務と申します。

一番最初のときにですね、活性化という意味合いの中で、活性化はもう要らないんじゃないかという、市民力の中で、明石公園に関しては、何とかできるんじゃないかというような御意見をいただいたかと思うんですけども、その中でも、まず一旦、民間の活力をするのに関しても、どういった形で民間の力を利用できるのかという形に関しては、サウンディング調査の中で、いろいろ提案をいただくという形にも手法としてはあると思いますんで、その中で重要になってくるのが、やっぱりどれだけ住民の方の意見を取り入れた提案になっているのかということが一番大事なことだと思うんですけども、それがですね、あまり反映されていないということであれば、それは、行政なり、その考え方として、それは棄却するだけの話だと思いますんで、その提案によってこれは取り入れできるなという部分については、積極的に取り入れるという考え方も1つはあってもいいのかなというのは1つ感じ

たところですよ。

それで、また、ボランティアの草刈りに関してのお話もあったと思うんですけども、なかなかですね、今、酷暑の中ですね、私も、先日も草刈りしたんですけども、1時間するだけでももう汗だくになってしまうような状況の中で、なかなか高齢者の方が参加するとしても、ボランティアの中では、非常に難しい状況なのかなというのがあって、ただそれを、私も、行政の一部なんですけれども、一つ、公園の管理等に関しては、シルバー人材センターとか、委託業務の中で、ある程度行ってる状況もあるんですが、ただ、実際に、住民の方も、できるだけボランティアでも参加したいというような意味合いが持っておられるということも、今回、認識させていただきましたので、それに関しては、ある程度、そういう声があるのであれば、取り入れていくのも、1つの方法なのかなというのは実際感じたところです。

それと、最後ですね、自転車競技場の関係の話もあったと思うんですけども、兵庫県さんも、いろいろな施設、複合施設ですね、持たれてる、体育施設も含めて持たれてると思うんですが、それらについては、十分、長期的な計画の下に、長寿命化計画というようなものを県さんのほうも策定されておられるんじゃないかと思うんですね。その中で、実際、限りある予算の中でどれを優先的に着手していかなければならないかということも含めて、実際、選択されてくるのが実情かなと思いますので、その辺については、県さんのほうも、十分調整していただけるんじゃないかとはすごく考えております。

簡単ですけど以上です。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございました。

それでは、高田先生、お願いできますでしょうか。

○高田知紀部長

はい。では、いつもどおりのダイジェスト版になりますけれども、今日の議論を私の手元でまとめてみましたので、画面を共有しながら、今日1日の議論を振り返りたいと思います。今、スライドは見えてますかね。

○嶽山洋志副部長

見えつつあります。

はい、オーケーです。

◇総括

○高田知紀部長

出ましたか、はい。

第10回の、振り返ったら、もう第10回ですね、部会検討会のヒアリングでした。

今日も、やはりですね、明石公園の活性化という議論だったんですけども、明石公園の自然の豊かさを生かしてこそ、明石公園がより元気になる、より活性化していくという話が多かったと思います。

緑を増やしつつ景観を守る。それも、明石の、明石市の中の里山として、というこういう環境を適切に維持しながら、いろんな事情で遠くに出かけられない人も、この明石公園に来れば、いろんな野鳥、虫、草花を観察するのに適したすばらしい環境なんだというお話がありました。

生態系を学ぶとてもいいフィールドとして明石公園があるので、こういったことを生かしながら、それを楽しむということと、実際にやっている活動、研究、そういったものの成果を共有できるような場所とか仕組みがあると、より明石公園が楽しめる。

さらに、議論でかなりポイントだったなと思ったのは、明石公園の中に閉じないということをしつぱし皆さんがおっしゃっていました。明石公園だけでなく、明石市全体の豊かな自然、これを知ったり、学んだり、楽しむことのできる、そういったセンター的な機能があればよりよいだろう。

あるいは、明石公園全体をミュージアムとして捉えて、その目次的な機能を見つつ、それを基に、明石公園に出て行ってさらに楽しめるような、こういう機能を持たせる、これを、実験的にでも進めていったらいいんじゃないかということが1つあると。

あとは、やはり、明石の文化的な価値、これも生かしていくということで、明石公園は、重要な史跡であるということで、ただそれを知る機会とか仕組みというのが、今、薄いように思うという話がありました。なので、既存の施設の中に、展示を充実させたり、あるいは、新たな資料館のような機能を持たせるというようなことも、提案として上がっていました。

さらに、城、城跡としてだけでなく、城下町明石としての歴史、文化を、県と市の協働で、さらに展開していったらいいという話もありました。

お城の歴史というのは、それだけで語られるものではなくて、旧街道や明石海峡といった地理的な関係の中で出来上がってきたものなので、こういう関係の歴史についても知れるように、あるいは、最後の発表の中で、公園の中に閉じる活動だけでなく、公園から魚の棚、さらに明石の海までを一体的な空間として捉えてイベントや仕掛けをしていくと、より地域全体、町全体でにぎわいが生まれるのじゃないか、そのときに、魚の棚と公園でうまくテーマやすみ分けをしながらやっていく、さらに、魚の棚の商店街のほうでも、まちづくりを進めていく上でも、商業者だけでなく、いろんな人とつながりながら進めていきたいという意思があるので、公園と町とのつながりというのが、これから1つポイントになってくるのかなと思いました。

こういった歴史から現在のまちづくりまでを明石の文化的な価値として、明石公園の活性化に生かしていくという話がありました。

やはり、子供が、思いっきり遊んで学べる環境をつくるということも大事だという声がた

くさんありました。授業のフィールドとして高い価値がある公園、さらに、子供たちが毎日遊びに来たくなるような場所にしたい。駅前の公園で、これだけ豊かな自然環境に触れ合える場所というのは貴重だということは、これまでも度々出てきたことです。

さらに、そういった自然を案内してくれたり、解説してくれるようなガイドさんもいれば、より子供たちも楽しめるだろう。さらに、駅から近いこども広場に、思いっきり遊べる自然と調和した遊具、これを設置すれば、子育て世代はもっと来園する。さらに、雨の日でも遊べるような場所、遊具があれば、よりよいだろうという話がありました。

あとインクルーシブというテーマも、これまで、明石公園の議論の中では最も重要な概念として出てきたんですが、障害の有無に関係なく、子供たちが一緒に遊べる環境、場所を、明石公園全体で、特定の場所というよりも、明石公園全体で実現するためには、学びと相互理解の機会というものもつくっていく必要があるという話でした。

インクルーシブな拠点を目指すということで、孤独・孤立対策の拠点として、この駅から近い緑豊かな明石公園の環境を生かそうという話、提案がございました。

生きづらさを感じてる人も、それぞれ理由があって、もう属性で分けて居場所をつくるというよりも、総合性を持った生きづらさを感じてる人に対する居場所づくりというものが必要で、明石公園はその拠点になり得るんじゃないか、さらに、相談や情報発信についても窓口を明確にしたり、中間支援としての体制、仕組み、構築、さらに、この明石公園での実践活動を通じて、そういったインクルーシブな環境づくり、福祉の人材育成にもつなげていくという提案がありました。そういった場所の拠点としては、いろんな場所が考えられるんですけど、1つは、旧市立図書館跡地が活用できるのではないかとという提案がありました。

あと、車椅子でも、明石公園を通り抜けられるように、園路を整備してほしい。特に今日、重要だなと思ったのが、車椅子に乗りながらも、城壁の上からでも景色を楽しみたいというような声もありました。それは決して、少数の車椅子を利用されてる方のためだけの仕組みというわけではなくて、車椅子で使いやすい公園というのは、全ての人にとって使いやすい公園なんだ、だからこれを目指していくんだという大事な指摘がありました。

あと、公園と健康づくりについても、今回、新たに出てきたテーマだったかというふうに思います。ヨガフェスを提案していただきました。食のイベントでも、食べて楽しむということと、それを利用した人は、健康について考える機会をつくれたらいいんじゃないか。ヨガはつながりという意味もある。明石公園の中の管理作業とか、環境活動を健康と関連づけられると、より参加者の幅も広がるのではないかとということもありました。

民間活力の導入というこの言葉についても、明石公園で、独自の捉え方をする必要があるということが、今日の議論の中で浮き上がってきたのではないかと思います。企業の力だけを民間活力と言うのではなく、市民の力としての民間活力を生かしていくんだ。民間力を幅広く捉える視点が明石公園では大事だろうということでした。

抽象的に、民間活力の導入とか、活性化をするのではなくて、具体的なテーマ、あるいは課題を設定した上で、それにどのようなパートナーが必要なのかということも議論してい

く、選んでいく必要があるという話でした。

あと、今日も、ボランティアの組織づくりの話とか、人間ネットワークの話が出てきました。

高校生のみんなが発表してくれたのは、子供や市民の皆さんと一緒に活動することに、すごくやりがいを感じているということでした。そのときに、ボランティア組織を設立することによって、よりいろんな人とつながれるのではないかな。さらに、公園の管理についても、管理者だけがやるのではなくて、市民も一緒にやろうよと、市民も一緒にやるよという話があり、草刈りとか樹名札の取付けなんかを、一緒に市民が行う公園管理の在り方を考えていこう。そのときに、ボランティア活動の窓口と、支援体制というものも必須になるだろうという話でした。

あとは、どこで、どんな人が、どういうテーマで活動してるのかと一目で分かるような、明石公園人間図鑑のようなものがあれば、より人の横のつながり、ネットワークが広がっていくという話題も出ました。

公園の維持管理の方法については、堀の水質をよくして魅力的な景観をつくろうという話と、基本は、やはり草刈りなので、この年間計画をつくって、これも、一緒に市民でやろうよというお話、提案がありました。

公園管理業務に、もっと積極的に市民参加を呼びかけてはどうか。明石公園には、それに参加してくれる人がたくさんいるだろうという話でした。あと、これは、これまでに出てきた議論でもあったんですけども、細かな配慮、判断が、草刈りに、植物の管理においては必要で、希少種を保護する目的などで、草刈りの実施時期や方法などにも工夫が必要だろうと。管理作業に、ボランティアで参加した後に、大人は、ちょっとおいしいビールを飲んだり、高校生は、冷たいアイスクリームを食べたり、ボランティアに参加した後の楽しみをつくるということも重要なポイントでした。

さらに、そういった管理作業で出た枝、あるいは落ち葉、これも資源として生かしていく。ごみとして出さずに、資源として生かして環境を循環させつつ、さらに、そういう堆肥とか資材として使うことで、経済の循環も実現できるのではないかなという提案がありました。

あと、情報集約と発信についても、今回も、幾つか意見が出ました。

やっぱり、公園で実施しているイベントなんかを分かりやすく公開して共有するような仕組み、明石公園は、貴重な環境であるということを、もっとアピールする必要がある。

今日、新しく出て、すごく私が面白いなと思ったのが、活動している団体だけじゃなくて、来園している、遊んでいる子供たちと一緒に、そのほかの人も一緒に情報を集約して、共有して、発信するような、そういうプラットフォーム、仕組みができれば、より情報発信と集約というものが充実していくんじゃないかなという、こういう仕掛けを考えていつてはどうかなという提案もありました。

最後に、自転車競技場の話ですね。これは、既存施設を利用して、明石公園を活性化していこうという話だったかと思うんですが、自転車競技場も含めて、公園の施設を適切に維持

管理、修繕しながら多くの人を使うことで、人の流れができて、それが、公園とか町にも貢献できるのではないかという話でした。

個別の施設の改修計画については、関係機関も含めて、引き続き議論していくことになるかと思います。

あと、地域の問題、明石の問題から、さらに地球環境の問題に貢献するような緑地として明石公園は位置づけられると、CO₂を吸着させるグリーンインフラとしての明石公園であったり、雨水がしみ込んで、地下水を涵養する土壌をつくる。さらに、そういった水の適切な循環が、明石の海をさらに豊かにしていくということで、土の中を通った水で、公園と海がつながっていくというような、こういう位置づけも考えていく必要があるだろうと。

最後ですね。私も、一宮さんでしたっけ、言ってくれた、人々の生きる力を育む場所としての明石公園という言葉に、今、すごく感動しまして、当たり前前の自然の価値からですね、今日も頑張ろうとか、一度落ち込んでた気持ちをリセットできるような、そういう力が、明石公園にはあるので、そういった、日常の人が普通に使う中で生きていく、日々を生きる小さな力が湧くような場所としての明石公園、これを大切にしていこうという話があったかと思います。

ちょっとダイジェスト版になりますが、以上で、もし何か、これは抜けてるとか、これ、大事だったよということがあれば、今すぐ付け加えますので言ってください。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。

いかがでございますか。よろしいでしょうか。

高田先生、かなりいろんな提案が出てですね、あり方検討会だけじゃなくて、やっぱり談議所というか、例えば草刈りの仕方であったり、いろんなプログラムであったり、いろんな実験的な話であったりとか、いろいろあったと思うんですけども、多分、できそうな提案だということで、1回ちょっと集まって、本当にどのように実現させていくかというようなところの議論につなげていく会というか、そういうのが、多分できるといいなと思うんです。また、談議所の日程とか、具体的に決めていければいいのかなというふうに思いますんで。

○高田知紀部長

そうですね、はい。ヒアリングの結果から、ちょっと談議所の走り出しというか、1回目、1回で、何かびしっと全部が決まるというわけではないと思うんですけども、みんな、複数のテーマでもいいと思うので、しっかりと実現する方向の議論を練っていけるような談議所をちょっとセッティングしますので、また、近々、関係の皆さんに御相談すると思いますので、よろしくお願いします。

○嶽山洋志副部長

ありがとうございます。

それでは時間が参りましたので、これで、第10回の公開ヒアリング終了とさせていただきますと思います。皆さん、どうも御協力ありがとうございました。

○一同

ありがとうございました。（拍手）

3 閉会

○事務局 小山

それでは皆さん、長時間ありがとうございました。

このまず会議資料でございますけれども、公園緑地課のホームページに、明日8月9日水曜日に公開のほうをさせていただきます。議事録につきましては、速記録という格好で、一字一句起こさせていただきますして、それを、1か月以内に公開のほうをさせていただきます。

それから、先ほど、部会長のほうです、取りまとめをいただきました資料でございますけれども、これ、整理をした上、早期に公開のほうをさせていただきたいと思います。

次の開催予定でございます。次回、8月30日14時30分から16時30分ということで、開催のほうをさせていただきたいと思います。

今日使いました資料で、委員の皆さん方ですね、もし御希望がありましたら、事務局にお渡しいただきましたら、皆さんのほうに、郵送のほうをさせていただきますのでお伝えください。

こちらのほうで終わりたいと思います。今日は長時間、どうもありがとうございました。

○一同

ありがとうございました。

以上

（閉会 午後4時6分）